

### 3.2.5 大阪青山大学

#### 3.2.5.1 中間報告

## 05\_大阪青山大学

【幼児教育の魅力を再発信する事業】

---



選択したテーマ（05\_大阪青山大学）

<p><b>テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信</b></p> <p>取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演</p> <p>取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談</p> <p>取組C： 養成校生との交流の機会の設定</p>
<p><b>テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援</b></p> <p>取組D： OB/OGなどとの交流会</p> <p>取組E： 適切な職業紹介事業などの普及啓発</p> <p>取組F： 周辺幼稚園等からのPR機会の設定</p> <p>取組H： 複数園での実習の推奨</p>
<p><b>テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援</b></p> <p>取組I： 若手教諭に向けたホームcomingデーの実施</p> <p>取組J： 体系的な現職研修の機会の確保</p> <p>取組K： 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施</p>

2

実施する各取組の計画・内容（05\_大阪青山大学）

テーマ1：中高生を対象とした職の魅力発信

**実施する各取り組みの計画・内容**

- 1) 高校生に対する幼児教育・保育に関する授業（取組 A、取組B）
  - ① 高大連携校等の生徒に対する本学での模擬授業
  - ② 高大連携校等の生徒に対する高校での模擬授業
  - ③ 大学生体験
  - ④ 養成校の学生による定期演奏会（12月8日）
- 2) 養成校入学後の実習や生活についての動画作成（取組 A）
 

動画① 幼稚園・保育園の一日・・・10月27日、30日

動画② 養成校の学生の座談会など → 養成校生の一日に変更・・・11月1日

動画③ 幼児教育施設での実習生の一日・・・11月10日
- 3) 幼児教育の魅力を伝える TikTok の撮影（取組 A）
- 4) オープンキャンパスでの相談コーナー（取組 C）
- 5) 養成校学生が考えた幼児教育の魅力に関する活動（取組 C）・・・11月19日（日）



オープンキャンパスでの高校生との会話から、内容を変更



3

## 7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（05\_大阪青山大学）

### 【7月～10月にかけて実施した各取組】

- 1) 高校生に対する幼児教育・保育に関する授業（取組A、取組B）
  - ① 高大連携校等の生徒に対する本学での模擬授業
  - ② 高大連携校等での模擬授業
  - ③ 大学生体験：参加者なし



### 【取り組みのポイント】

- ①、② 過去に具体的な保育活動を入れることで、高校生からのアンケート結果が好評であった為、講義にプラスして演習を取り入れた。
- ③ 保育者養成校の実際的な学びを通して、高校生が幼児教育に魅力を感じる事が出来るように、大学生体験を実施した。

### 【成果と課題】

- ①、② 高校生と大学教員が関わりながら進めることで、主体的に「演習」に取り組むことが出来た。高校生からは、演習と講義から「幼児教育の魅力」と「奥深さ」を感じる事が出来たという感想を得た。
- ③ 「大学生体験」に関しては参加者がいなかった。これについては、取り組みの2カ月前に案内をしたことが考えられる。その為、高校生に、幼児教育の魅力伝えるイベントに参加してもらう為に、第1回目のオープンキャンパスの時期から、年間を通した行事予定を伝えていくと良いと考えた。

### 【今後の予定】

- ④ 養成校の学生による定期演奏会（12月8日）
  - ・音楽に興味がある生徒、高大連携の高校や本学に生徒を送っている高校の先生に向けてアピールできることを期待
  - ・幅広く広報を行う為に、本学最寄り駅の柱広告、箕面郵便局のデジタルサイネージを使用して演奏会の案内を行う

4

## 7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（05\_大阪青山大学）

### 【7月～10月にかけて実施した各取組】

- 2) 養成校入学後の実習や生活についての動画作成（取組A）  
動画① 幼稚園・保育園の一日・・・10月27日、10月30日
- 3) 幼児教育の魅力伝えるTikTokの撮影・・・10月4日、10月12日、10月23日



### 【取り組みのポイント】

#### 2) 養成校入学後の実習や生活についての動画作成全体に対して

- ・オープンキャンパスで高校生等から出る質問、在学生の実習に向けた不安などを踏まえて、動画を制作
- ・打ち合わせにおいて、若年層の動画1本に対する視聴時間が短くなっている事があがり、それを踏まえて、1本あたりの長さを15分以内とした

#### 動画① 幼稚園・保育園の一日

- 幼児教育・保育の魅力を端的に伝える為、必要に応じて、言葉やテロップで補足説明を行うことや、主任先生のインタビュー動画も含めたものにする
- 幼保の違いを端的に伝える為、幼保連携型認定こども園を選定
  - ・同一の敷地にあるが、子どもの活動や保育の楽しさ・魅力をもれなく伝える為、2日間に分けて撮影を行う
  - ・幼稚園と保育園の保育時間、0～2歳児と3～5歳児の保育の流れの違いや魅力を簡潔に伝えることが出来るようにする

#### 3) 幼児教育の魅力伝えるTikTokの撮影

- ・幼児教育の魅力幅広く伝える為の導入動画として、高校生になじみがあると思われるTikTokを使用
- ・保育者養成校の学生の様子を幅広く伝える為、1～4年生でTikTokチームを作った
- ・学生の意見を取り入れながら撮影を行っており、次に内容を示す
- ・学生生活の一日、教員紹介、施設紹介、養成校の「〇〇あるある」、実践紹介：自己紹介シアター、手遊び、歌、手話+手遊び、ピアノ演奏、製作物紹介（実演）、絵本・紙芝居読み聞かせなど

5

## 7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（05\_大阪青山大学）

### 【成果と課題】

#### 動画① 幼稚園・保育園の一日

当初の撮影予定日よりも、肖像権・著作権の確認を丁寧に行う事で動画撮影に関しては進捗状況が遅れている。また、環境を通して遊びの中から学ぶ幼児教育の魅力を伝える為に、決められた日数の中で子どもの姿を捉えることが出来るのがネックになってくる。

#### 3) 幼児教育の魅力を伝えるTikTokの撮影

TikTokは学生にとって身近であり魅力的なものであることから、高校生にとっても同様のことが言えると思われる。しかし、今回は学生が楽しむことがメインではない。学生は楽しみながら撮影しつつも、目的は高校生に幼児教育の魅力を再発信することである。従って、学生の思いも大切にしながら、「ねらい」を学生自身が意識して行う必要がある。この様に「目的」・「ねらい」を意識しながら活動を進めていく事は、学生にとって幼児教育職に就くにあたっての大切な視点ではないかと考えられた。

### 【今後の予定】

#### 動画② 保育者養成校生の一日・・・11月1日

・高校生が保育者養成校の学生に対する憧れや、興味が持てるような動画にする為、リアル感を味わうことが出来るVlog風の動画にする

#### 動画③ 幼稚園での実習生の一日・・・11月10日

- ・実習生の一日を実感できるように、出勤から退勤までの動画にする
- ・子どもや先生との関わり、部分実習の様子なども入れる
- ・学生のインタビュー動画（実習の感想などについての）も含めた動画にする



#### \*動画視聴のアンケート

・動画作成後、高校生や保育者養成校の学生に幼児教育の魅力が伝わったかどうかのアンケートを取る

#### 3) 幼児教育の魅力を伝えるTikTokの撮影

- ・TikTokを通して、幼児教育や保育に興味がない層にも幅広く魅力が伝わると思われる
- ・学生が集まる事が出来る時間と業者の方との日程調整が難しく、懸念事項であった。業者の方と学生及び担当教員でTeams等のツールを使用し、スムーズな調整が出来るようにした

6

## 7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（05\_大阪青山大学）



### 【7月～10月にかけて実施した各取組】

- 4) オープンキャンパスでの相談コーナー（取組 C）

### 【取り組みのポイント】

- 4) 高校生が落ち着いた温かい雰囲気の中で相談が出来るように、子育て支援室に学生による相談コーナーを設けた。

### 【成果と課題】

- 4) 7月～8月上旬にかけては相談コーナーに来る高校生や保護者も多かったが、8月後半以降は少なかった。この理由として、高校2年生の参加者が多かったことが考えられる。成果としては、直接、高校生が学生に相談する為、進路選択の方法や実習などについて具体的に聞くことが出来た。

### 【今後の予定】

#### 5) 養成校学生が考えた幼児教育の魅力に関する活動 (C)・・・11月19日 (日)

- ・養成校の学生が直接、自分たちで考えた「幼児教育の魅力」を伝えることで、高校生の幼児教育に対する魅力が深まることが期待できる
- ・養成校の学生にとっても、幼児教育の魅力を次世代に伝えることで、楽しさや面白さなどを再確認するきっかけになることが期待できる

7

## 7月～10月にかけて実施した各取組の進捗 (05\_大阪青山大学)

### テーマ2：養成校生を対象としたキャリア形成支援

#### 実施する各取り組みの計画・内容

- 1) 保育職、教育職の実習支援及び就職支援を行う保育・教職支援室 (取組E)
- 2) 就職会議での情報共有 (取組E)
- 3) 保育・教職支援室における就職先リストの作成、各園毎のファイリング作業及び相談業務 (取組F)
- 4) 2年次生の附属園又は協力園での基礎実習と3年次の教育実習 (取組H)
- 5) 「子どもの健康と生活」における現職教員による講話 (取組F)
- 6) 卒業生による講話及び交流 (取組D)



#### 【7月～10月にかけて実施した各取組】

- 1) 保育職、教育職の実習支援及び就職支援を行う保育・教職支援室 (取組E)
- 2) 就職会議での情報共有 (取組E)
- 3) 保育・教職支援室における就職先リストの作成、各園毎のファイリング作業及び相談業務 (取組F)
- 4) 2年次生の附属園又は協力園での基礎実習と3年次の教育実習 (取組H)

#### 【取り組みのポイント】

- 1) 保育職、教育職の実習支援及び就職支援を行う保育・教職支援室
- 2) 就職会議での情報共有
- 3) 保育・教職支援室における就職先リストの作成、各園毎のファイリング作業及び相談業務
  - ・ 保育・教職支援室と4年次担任を中心に行っている就職支援
  - ・ 一人一人の学生の就職状況の一覧を共有・把握し、キャリア支援を行っている
- 4) 2年次生の附属園又は協力園での基礎実習と3年次の教育実習
  - ・ 2年次9月に附属及び協力幼稚園で5日間の基礎実習を行った
  - ・ 学生の就職希望や保育・教育内容の希望などを踏まえて、教育実習先を附属及び協力園以外から選び、15日間の教育実習を行った



8

## 7月～10月にかけて実施した各取組の進捗 (05\_大阪青山大学)

#### 【成果と課題】

- 1) 保育職、教育職の実習支援及び就職支援を行う保育・教職支援室
- 2) 就職会議での情報共有
- 3) 保育・教職支援室における就職先リストの作成、各園毎のファイリング作業及び相談業務
  - ・ 今年度の就職状況としては、例年に比べても早く内定が決まる学生も多い
  - ・ 就職未決定の学生の中にある自信のなさや、就職決定後も就業について不安を持っている学生の姿もあるので、保育・教職支援室と4年次の担任を中心に、学科教員全員で学生の情報を共有し、キャリア支援を行っていく必要がある
- 4) 2年次生の附属園又は協力園での基礎実習と3年次の教育実習
  - ・ 幼稚園の実習に参加し、子どもと関わる中で、一層、幼児教育・保育に関心を持った様子が伺えた
  - ・ キャリア形成に向けて丁寧な事後指導を行う

#### 【今後の予定】

- 5) 「子どもの健康と生活」における現職教員による講話 (取組F)・・・11月20日 (月)
  - \* 幼稚園園長による幼児教育の魅力に関する講話を行う
- 6) 卒業生による講話及び交流 (取組D)・・・11月23日 (木)
  - \* ①、②、③を踏まえ、経験年数のある幼稚園教諭だけではなく、卒業後1年の同窓生を含め、就職後の不安や就職決定までの思いなどについても話してもらうことで、就職に足踏みしている学生の起爆剤になると考えられる

9

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗 (05\_大阪青山大学)

テーマ3：現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援

- 1) 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施 (取組I)
- 2) 保育・教育研修会 (取組J、取組K)

【7月～10月にかけて実施した各取組】

- 1) 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施 (取組I)
- 2) 保育・教育研修会 (取組J、取組K)



【取り組みのポイント】

1) 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施

・若手教諭の早期離職及びキャリア形成支援を行う為、卒後1年目のホームカミングデーは7月に行う

2) 保育・教育研修会

・現在の保育・教育上の諸課題の認識を高め、指導力向上を図る研修を提供する受講対象者：

- ① 保育・教育職に従事している本学卒業生
- ② 本学と包括連携協定を結んでいる市の保育・教育施設に勤務している方
- ③ ①、②以外で保育・教育職に従事している方

\*連携を結んでいる市の教育委員会に出向き、事前に必要枚数の資料を聞き、直接渡した



【ホームカミングデーの成果と課題】

卒後1年目のホームカミングデーの時期を7月にしたこと、多くの教員が出動していたことから同窓生同士だけではなく、個人的に教員に様々な相談をすることが出来、1年目ならではの悩みを解消していく姿が見えた。卒後1年目のホームカミングデーは、園の行事なども考えながらではあるが、夏休み前にすることで、同窓生の早期離職を防ぐ手立てになるのではないかと考えられた。

10

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗 (05\_大阪青山大学)

【保育・教育研修会の成果と課題】

【成果と課題1：実施状況について】

	保育関係	児童福祉関係	小学校	栄養関係	看護師	在学生	不明	合計
子ども教育	8 (9)	2 (2)	6 (6)			12 (12)		29 (29)
健康栄養	1 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)			1 (1)	5 (5)
三市 (箕面、池田、川西)	0 (0)	0 (0)	1 (1)				4 (5)	6 (6)
その他	1 (1)	2 (2)	2 (2)		1 (1)			6 (6)
合計	10 (11)	4 (4)	10 (10)	2 (2)	1 (1)	12 (12)	4 (6)	43 (46)

\*80名定員であったが、参加者が少なかった

この理由として、次のことが考えられる。

- ・今年度より始めた研修会だったこと
- ・保育・教育研修会の存在が浸透していないこと
- ・チラシ等での案内が遅かったこと

\*課題の一番大きな点としては、6月下旬頃からチラシ配布を行ったため、案内が遅かったことが考えられる。少なくとも、GW明け頃に案内をしていく事で、夏休みの予定を立てやすくなるのではないかと考えられた

【成果と課題2：時期について】

「時期的にかなり暑いのでもう少し時期をずらしてほしい」、「土日の方が仕事の都合がつきやすく行きやすい」、「時間にゆとりのある夏休みの開催は良い」、「土日は家庭での予定が調整しにくく、平日であれば研修という形で参加しやすい」という感想があった。

昨年度は、卒業生を対象に「平日」に行ったところ、「土日」開催の要望が出たので、今年度は「土日」に開催した。しかし今回開催する中で、それぞれのライフステージや状況などによって時期についての要望に違いがあることが分かった。

そこで、次年度以降は、平日と土日を組み合わせることで、様々な状況にある参加者が参加しやすくなるのではないかと考えられた。

11

## 7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（05\_大阪青山大学）

### 【成果と課題3：プログラムについて】

内容	1	2	3	4	合計	平均
最近の食物アレルギー情報	0	0	0	12	48	4.0
学校教育におけるいじめ問題—School Lawyerの立場から—	0	0	2	17	74	3.9
集団づくり	0	0	2	8	38	3.8
子どもの虐待問題	0	0	0	11	44	4.0
発達障害とその周辺領域の子ども理解	0	0	4	10	52	3.7
運動あそび	0	0	0	5	20	4.0

4：よい（十分満足した・十分成果を得られた）  
3：だいたいよい（満足した・成果を得られた）  
2：あまり十分でない（あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった）  
1：不十分（満足しなかった・成果を得られなかった）

参加者から、「次回も参加したい」や「同僚に勧めたい」という感想から、今回のプログラム内容について好評を得ていることが分かる。

尚、今後のプログラムへの要望として、次のようなものがあった。

- ・保育についての新情報。マネジメント
- ・周産期とリンクしながらの学び
- ・子ども達の成長発達を見守っていく為の心理的・発達の研修
- ・保育士がやりたい保育を実現するには？（保育士が定着しないので）

この「保育士がやりたい保育を実現するには？保育士が定着しないので」という感想にもあるように、幼児教育・保育における若手教諭の保育職における定着については、今まで以上に一層喫緊の研修課題であると思われた。

12

### 3.2.5.2 最終報告

## 05\_大阪青山大学

### 【幼児教育の魅力を再発信する事業】

1

## 選択したテーマ（05\_大阪青山大学）

<b>テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信</b>
取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演
取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
取組C： 養成校生との交流の機会の設定
<b>テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援</b>
取組D： OB/OGなどとの交流会
取組E： 適切な職業紹介事業などの普及啓発
取組F： 周辺幼稚園等からのPR機会の設定
取組H： 複数園での実習の推奨
<b>テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援</b>
取組I： 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施
取組J： 体系的な現職研修の機会の確保
取組K： 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施

2

## 実施した取組（05\_大阪青山大学）

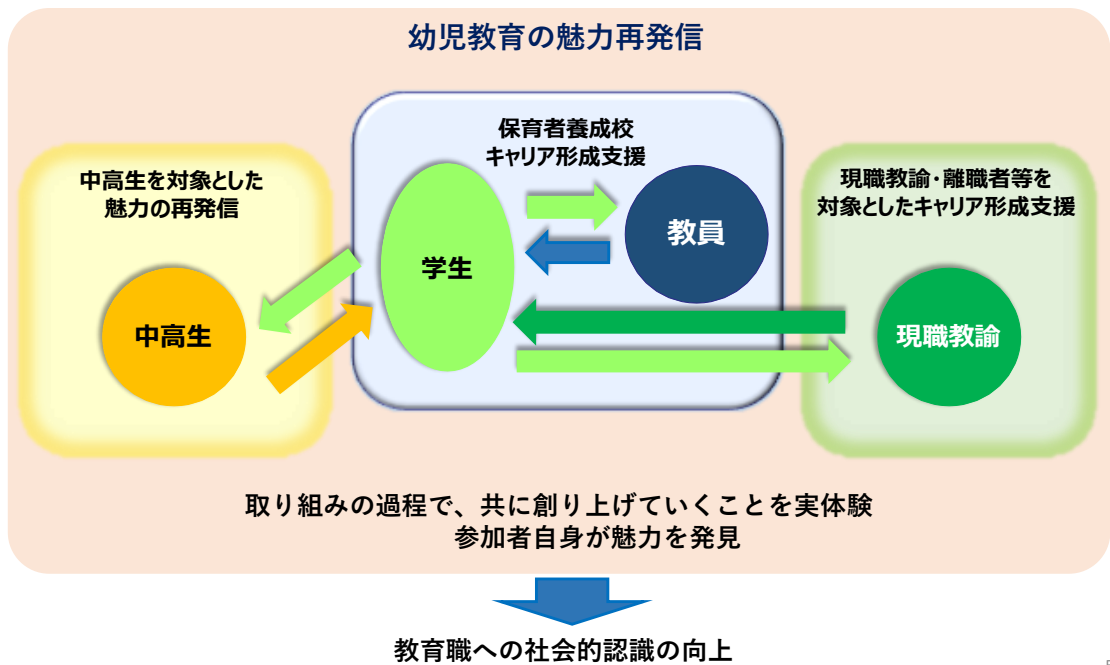
- 1 高校生に対する幼児教育の魅力発信**
  - ・高校生を対象にした（本学や高校での）模擬授業
  - ・オープンキャンパス など
- 2 保育者養成校の学生に対するキャリアサポート**
  - ・保育・教職支援室でのサポート（実習・就職）
  - ・就職会議での教職員間の情報共有
  - ・2年次生の基礎実習（附属園又は協力園）と3年次生の教育実習
  - ・1年次生の「子どもの健康と生活」における現職教員による講話 など
- 3 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施**
- 4 保育・教育研修会**

3



- 5 保育者養成校の学生による定期演奏会
- 6 幼児教育の魅力を伝える動画作成とアンケートの実施
- 7 幼児教育の魅力を伝えるTikTokの作成
- 8 保育者養成校の学生が考えた幼児教育の魅力に関する活動
- 9 卒業生による講話及び交流

### 幼児教育の魅力：共創



2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果（05\_大阪青山大学）

5 保育者養成校の学生による定期演奏会

①-A

【実施日時】2023年12月8日（金）18:30～20:50（於：箕面市立メイプルホール 大ホール）

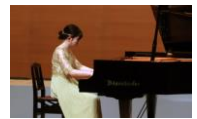
▷プログラム

第 1 部				第 2 部			
#1 《ファミリーアニメ・コレクション》	〈おどるボンゴリン〉など	学	混合8重奏	#8 〈Sing, Sing, Sing〉		学	卒 平成11重奏
#2 《バイエルの軌跡》	〈第66番・第72番〉	学	ピアノ独奏	#9 〈アルプスの夕映え〉		学	ピアノ独奏
#3 《千と千尋の神隠し》より	〈いつも何度でも〉	学	ピアノ連弾	#10 《練習曲集 Op.25》より〈第1番「エオリアンハーブ」変イ長調Op.25-1〉		学	ピアノ独奏
#4 《動物の謝肉祭》より	〈白鳥〉	学	ピアノ連弾	#11 〈山の音楽家～モーツァルトの夕べ〉		卒	ピアノ連弾
#5 『ディズニードレー』	〈小さな世界〉など	学	声楽アンサンブル	#12 〈バラード第1番ト短調Op.23〉		学	ピアノ独奏
#6 《幻想小曲集Op12》より	〈飛翔〉	学	ピアノ独奏	#13 《バガニニニ大練習曲集S.141》より〈第5曲「狩り」ホ短調〉		教	ピアノ独奏
#7 『中田善直～四季メドレー～』	〈むこうむこう〉など	教	ソプラノ独唱	#14 〈あした笑顔になあれ〉	〈いのちの歌〉	学	合唱

▷ポイント

・「声楽Ⅰ、Ⅱ」や「器楽Ⅰ～Ⅳ」など、各学年に設置されている音楽の学修発表の機会

- 養成校の学生：学びの成果を実感できる場
- 学生の家族等：我が子の成長を実感
- 高校生・保護者：入学後の学びの一端を可視化
- 地域住民：保育者養成校の学びを知る機会



・地域に対し保育者養成校の学びを発信する機会

- 入試広報や地域連携室の協力もあり、駅前や郵便局のサイネージ、箕面FMの出演など、地域に保育者養成校の学びの一端を広く知ってもらうチャンス



▷課題

- 中高生への周知方法

2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果（05\_大阪青山大学）

5 保育者養成校の学生による定期演奏会

①-A

▷アンケート結果

来場者数 193名  
有効回答数 66名（回収率34%）

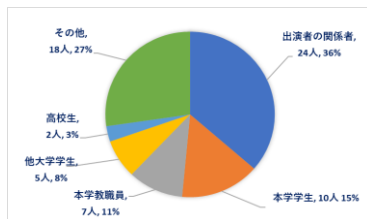


図1 来場者について

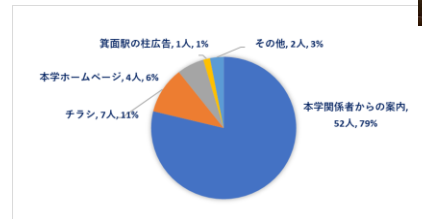


図2 情報源

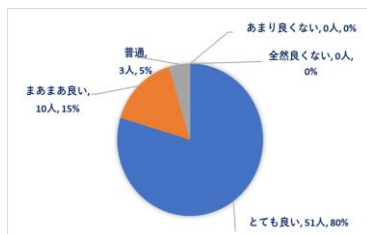


図3 感想

自由記述

- ・演奏会の感想
- ・取り組みに関するコメント
- ・その他



今後に向けて

- ・ホールの方との打ち合わせ方法について

2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果 (05\_大阪青山大学)

6 幼児教育の魅力を伝える動画作成とアンケートの実施

①-A

○幼稚園・保育園の一日

- ・ 撮影日時：令和5年10月27日（金）、30日（月）
- ・ 取組の概要：幼稚園と保育園の一日について

○幼稚園教諭を目指す大学生の一日

- ・ 撮影日時：令和5年11月1日（水）
- ・ 取組の概要：幼稚園教諭を目指す大学生の一日について

○実習生の一日

- ・ 撮影日時：令和5年11月10日（金）
- ・ 取組の概要：実習生の一日

○アンケート調査

- 【高校生】令和6年1月10日（水）、2月2日（金） \*対象者：計163名
- 【保育者養成校の学生】令和6年1月15日（月） \*対象者206名



▷ポイント

・過去のオープンキャンパスなどで、高校生からよく出ていた学生生活、実習や実際の園の一日の流れについての動画を作成し、幼児教育の魅力を可視化

・動画を通して実際に幼児教育の魅力が感じられたかについて、アンケート調査で検証

8

2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果 (05\_大阪青山大学)

6 幼児教育の魅力を伝える動画作成とアンケートの実施

①-A

▷アンケート結果

回答 243名 有効回答 210 (有効回答率 86%)

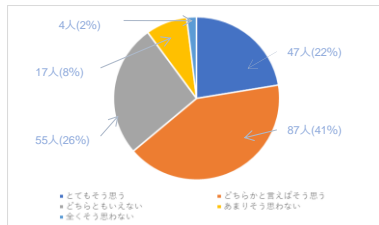


図1 「幼稚園・保育園の一日」を見て「幼稚園教諭」の仕事に魅力を感じたか

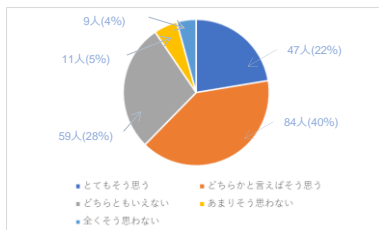


図2 「幼稚園教諭を目指す大学生の一日」を見て保育者養成校に対する関心が高まったか

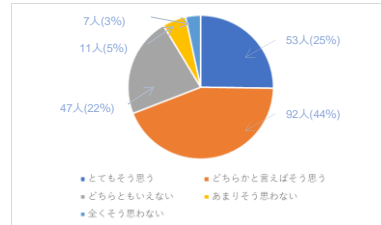


図3 「実習生の一日」を見て保育者養成校に対する関心が高まったか

映像に関する自由記述

- ・内容について（やりがい・魅力・興味を感じた、勉強になった等）
- ・映像について（具体的で分かりやすい、文章があって見やすい等）
- ・その他

今後に向けて

オープンキャンパスや高校訪問、大学の授業等にて、今回作成した映像を用いて幼児教育の魅力を伝えていく

9

7 幼児教育の魅力を伝えるTikTokの作成 ①-A



【実施期間】 11月7日～1月末日までの 毎週火曜日・金曜日

【取組の概要】

・TikTokを作成し、実施期間内毎週火曜日・金曜日の

午後6時に投稿

・各動画(計25本)に関して1週間後に詳細情報の分析を実施

▷ポイント

・幼児教育の魅力を幅広く伝える導入動画としてTikTokを使用

・保育者養成校の学生の様子を幅広く伝える為、1～4年生で

構成されたTikTokチーム

・学生主体の取り組みと実務家教員からのアドバイス

月	日	No.	タイトル
11月	7日	1	幼児教育の魅力伝えます
	10日	2	一緒にまわろう教室ツアー
	14日	3	3子ども教育学科にはどんな教室があるの？
	17日	4	4子ども教育学科1年生にインタビュー
	21日	5	5折り紙で簡単！きのこを作ってみよう
	24日	6	6せんぱ～い！
	28日	7	7大きな栗の木の下で 学生が歌ってみました

月	日	No.	タイトル
12月	1日	8	8はじまるよはじまるよ
	5日	9	9子ども教育学科の学生がやってみた！2択チャレンジ
	8日	10	10ミッキーマウス
	12日	11	11子ども教育学科の先輩に突撃インタビュー！
	15日	12	12ミュージックベルチャレンジ「星に願いを」
	19日	13	13折り紙で簡単 サンタさん
	22日	14	14メリークリスマス
	26日	15	15子ども教育学科 光るクリスマスツリーづくり
	29日	16	16ミュージックベルチャレンジ 「ふるさと」

月	日	No.	タイトル
1月	2日	17	17子ども教育学科 おりがみ 『だるま』
	5日	18	18子ども教育学科 いとまき
	9日	19	19子ども教育学科の学生と歌ってみよう！
	12日	20	20子ども教育学科の学生と手遊び覚えてみてね！ パン屋に5つのメロンパン
	16日	21	21手袋シアターでやってみました 5つのメロンパン
	19日	22	22スケッチブックシアター 「不思議なポケット」
	23日	23	23おりがみ「鬼の指人形」
	26日	24	24カラーライス
	30日	25	25折り紙 「鬼の豆入れ」

▷調査結果 ※配信日から1週間後のデータを記載

発信日	内容	最高視聴数	再生回数	いいね数	フォロー数 (前回差)	合計再生時間	フル視聴率	トラフィックソース		視聴者			年齢	
								おすすめ	検索・プロフィール等	男性	女性	その他	18-24	25-
11月7日	幼児教育の魅力伝えます	1,266	2,695	25	29 (±0)	4時間 4分16秒	13.27%	71.6%	28.4%	20.0%	79.0%	1.0%	76.0%	24.0%
11月10日	教室ツアー①	446	1,127	21	34 (+5)	2時間46 分24秒	10.13%	64.2%	35.8%	32.0%	65.0%			
11月14日	教室ツアー②	363	850	16	37 (+3)	1時間20 分20秒	12.41%	58.0%	42.0%	28.0%	68.0%			
11月17日	突撃インタビュー (1年生)	671	1,619	25	37 (±0)	3時間24 分7秒	5.45%	83.1%	16.9%	22.0%	76.0%			
11月21日	きのこ(折り紙)	356	944	16	42 (+5)	1時間55 分49秒	4.25%	72.1%	27.9%	21.0%	71.0%			
11月24日	突撃インタビュー (2年生)	1,776	3,201	42	46 (+4)	8時間50 分20秒	5.96%	89.8%	10.2%	23.0%	74.0%			
11月28日	手遊び (大きな栗の木の下で)	2,812	5,312	30	50 (+14)	9時間15 分43秒	7.68%	93.9%	6.1%	30.0%	67.0%	3.0%	76.0%	34.0%
12月1日	手遊び (はじまるよ)	4,203	6,521	46	68 (+18)	12時間 50分46秒	5.72%	94.0%	6.0%	29.0%	69.0%	2.0%	59.0%	41.0%
12月5日	2択チャレンジ	3,532	5,530	44	79 (+11)	18時間40 分35秒	14.68%	92.4%	7.6%	22.0%	76.0%	2.0%	73.0%	27.0%
12月8日	手遊び (ミッキーマウス)	1,167	3,196	33	79 (+1)	7時間0 分56秒	3.51%	85.9%	14.1%	22.0%	74.0%	4.0%	70.0%	30.0%
12月12日	突撃インタビュー (4年生)	426	1,156	23	80 (+1)	2時間54 分38秒	5.15%	68.4%	31.6%	20.0%	68.0%	12.0%	68.0%	32.0%
12月15日	ミュージックベル (星に願いを)	986	1,898	31	80 (±0)	4時間7 分55秒	5.25%	84.8%	15.2%	18.0%	77.0%	5.0%	70.0%	30.0%
12月19日	おりがみ (サンタ)	146	385	18	82 (+3)	1時間4 分45秒	9.18%	33.5%	66.5%	27.0%	57.0%	16.0%	64.0%	36.0%
12月22日	手遊び (とんとんとんとんクリスマス)	479	823	19	84 (+2)	1時間36 分48秒	6.90%	74.0%	26.0%	22.0%	69.0%	9.0%	68.0%	32.0%
12月26日	手遊び (クリスマスツリー)	870	1,154	18	84 (±0)	1時間36 分48秒	2.34%	84.2%	15.8%	15.0%	82.0%	3.0%	62.0%	38.0%
12月29日	手遊び (ふるさと)	642	944	18	85 (+1)	1時間52 分44秒	5.94%	82.4%	17.6%	18.0%	79.0%			
1月2日	おりがみ (だるま)	473	741	19	85 (±0)	0時間57 分10秒	2.70%	82.3%	17.7%	19.0%	75.0%			
1月5日	手遊び (いとまき)	1,137	1,509	16	87 (+2)	2時間4 分26秒	5.09%	87.8%	12.2%	13.0%	85.0%			
1月9日	スケッチブックシアター (どんないきがき)	427	1,782	35	92 (+5)	4時間20 分33秒	1.96%	87.3%	12.7%	15.0%	82.0%	3.0%	67.0%	23.0%
1月12日	手遊び (5つのメロンパン)	5,283	7,243	78	93 (+1)	17時間 13分14秒	5.15%	96.3%	3.7%	17.0%	81.0%	2.0%	67.0%	33.0%
1月16日	手袋シアター (5つのメロンパン)	970	1,867	34	97 (+4)	3時間8 分3秒	8.93%	71.7%	28.3%	13.0%	81.0%	6.0%	74.0%	26.0%
1月19日	スケッチブックシアター (不思議なポケット)	1,818	4,568	131	99 (+2)	12時間3 分56秒	8.00%	93.0%	7.0%	10.0%	81.0%	9.0%	80.0%	20.0%
1月23日	折り紙 (鬼の指人形)	480	799	30	106 (+7)	1時間 4分48秒	3.23%	68.6%	31.4%	17.0%	69.0%	14.0%	68.0%	32.0%

①手遊び、スケッチブックシアター等、保育実践の参考に  
なる動画が人気

②高校でTikTokの案内をして  
いただいた直後

▷今後に向けて ・「再生回数」等が多い動画を参考に、動画の作成や配信の工夫を行う

・学内外に向けて、広告用のチラシを掲示・配布していく

8 保育者養成校の学生が考えた幼児教育の魅力に関する活動

①-B,C

【実施日時】 令和5年11月19日（日）10:30～11:20

【取組の概要】

保育者養成校の学生が「幼児教育・保育の魅力」や「保育者養成校の学びや魅力を伝えること」を目的として「クリスマス製作」、「紙コップ積み競争」、「魚つり」、「おしゃべりコーナー」、「4コマ漫画で表した養成校の学び」、「養成校くじ引き」を考え、高校生（7名）とその保護者との交流を行った

▷ポイント

- ・「教職実践演習（幼保）」受講者の各グループが様々な工夫し伝える **遊びを通して学ぶ幼児教育の魅力発信**
- ・ **高校生や保護者**が、楽しみながら養成校の学びや子どもとの関わり楽しさ、**幼児教育の魅力に触れることが出来る体験活動**
- ・ **養成校の学生**にとって、自分たちが経験した学び、実習や就職活動の様子を **省察し言葉で伝える機会**
- ・ **養成校の学生**にとって、**幼児教育の魅力や面白さを再認識するきっかけ**

▷今後に向けて

高校生や保護者からも好評な事業であった。  
高校生がより参加しやすい時期の検討が必要である。



12

9 卒業生による講話及び交流

②-D

【実施日時】 令和5年11月23日（木）10:00～11:45

【取組の概要】 保育者養成校の4年次生のキャリア形成を目的として、幼児教育の現場で働く同窓生（卒後1年目、卒後2年目、卒後6年目）から講話を聴いた後、交流を行い、アンケート調査を行った



▷アンケート結果 参加者38名（有効回答数 21：回収率55%）

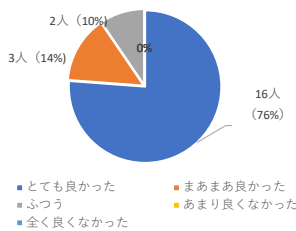


図1 講話について

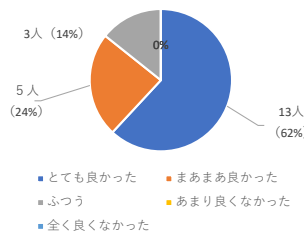


図2 交流について

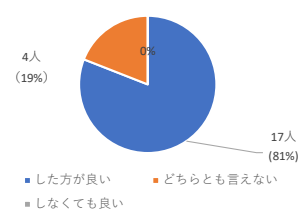


図3 次年度について

▷今後に向けて

- ・幼稚園だけでなく、各自の進路に合わせた（保育所や施設）講話・交流を行う
- ・「現場で働いている保育者の方々の話を聞き、不安であったことが少し軽減された」、「勤続年数の違いによって異なるアドバイスが聞けて良かった」という意見から引き続き実施していきたい

13

2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（05\_大阪青山大学）

## 1. 高校生に対する幼児教育の魅力発信の振り返り

- ・高校生を対象にした（本学や高校での）模擬授業
- ・オープンキャンパス など

### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・保育者養成校の学生に魅力を感じ、入学の意思を持つ高校生もいるので、オープンキャンパス等で在学生との交流を積極的に行う
- ・高校生（1、2年生）に対する魅力発信については、次年度の受験応募状況でも効果検証を行う
- ・高校生が幼児教育・保育・福祉に興味を持つことが出来るような内容の企画を考え、実施する

### ②取組の課題・反省

- ・8、9月は進路研究や友人の付き添い等で参加している高校生（1、2年生）も多かったため、幼児教育希望者の裾野を広げる機会と捉え、次年度も参加してみたいと思われるように内容を工夫する

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・保育者養成校の学生と高校生の交流方法について、引き続き考えていく
- ・今年度は高校生を対象に発信を行ったので、中学生への幼児教育の魅力発信についても検討を行う

14

2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（05\_大阪青山大学）

## 2. 保育者養成校の学生に対するキャリアサポートの振り返り

- ・保育・教職支援室でのサポート（実習・就職）
- ・就職会議での教職員間の情報共有
- ・2年次生の基礎実習（附属園又は協力園）と3年次生の教育実習
- ・1年次生の「子どもの健康と生活」における現職教員による講話 など

### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・保育・教職支援室や就職会議に出席する委員だけではなく、学科全体で就職会議の情報を共有し学生の就職サポートを行う
- ・2年次基礎実習と3年次教育実習の接続を意識した授業の取り組みを行う（例：「保育カリキュラム論」、「教育実習事前事後指導」、「保育内容総論」など）
- ・1年次生より幼児教育の魅力を現職教員から学ぶ講話の機会を設ける（「子どもの健康と生活」）

### ②取組の課題・反省

- ・学生の情報を共有していても学科内の教員間で温度差がある
- ・学科のカリキュラムと関連付けたキャリア支援について、学生への分かりやすい教授方法を考える

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・現在は学科会議のみである為、教職員間で学生情報の共有方法を考える
- ・基礎実習や幼稚園実習だけではなく、各実習担当者や各学年の担任と連携し、学生のキャリア支援を行う

15

### 3. 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施の振り返り

#### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ 卒後1年目のホームカミングデーを現在の悩みを話せる場とする為、夏休み前に実施し、早期離職を防ぐ手立てとする

#### ②取組の課題・反省

- ・ 同窓生からは個別に教員の顔を見て安心する姿や個人的な相談がある場合もある為、余裕を持ってホームカミングデーのプログラムを設定する
- ・ 担任を持っていた教員等だけではなく、同窓生は様々な教員と話したい姿があったので、学科全体の行事として位置付け、教員の出勤日とするなど学科全体でホームカミングデーに取り組む

#### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ 卒後年数の経つ同窓生への連絡は、葉書、クラスラインでの周知に加え、大学同窓会からの連絡も検討する
- ・ 参加人数の変更にも柔軟に対応できるプログラムにする

16

### 4. 保育・教育研修会の振り返り

#### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ アンケート結果から、今年度の取り組みが好評であったことが伺えた。  
日々アップデートされる教育課題への対応を学ぶ機会と位置付け、次年度以降も引き続き研修会を行う

#### ②取組の課題・反省

- ・ 参加した受講者からは有意義な研修であったことが伺えたが、案内時期が少し遅かった為、受講者が少なかった。
- ・ オープンキャンパスと同時開催をした為、運営側がタイトなスケジュールで行動することになった

#### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ アンケートに書かれた要望を反映させて、次年度以降のプログラムを立案する
- ・ 開催時期や曜日などについては、参加者（各保育者・教職者）のライフステージによって異なることが伺えたので、平日と休日（土曜日を含む）の2日間で考える
  - ex) 中堅：休日だと子どもの預け先確保が難しい
  - 若手：休日の方が仕事を休むことなく参加できる
- ・ 参加者が夏休みの計画を立てやすいように、5月の連休明けにはプログラム内容を決定し、案内を行う
- ・ 卒業時に確認した住所先への案内は、既に親元から独立している場合、連絡が伝わりにくい。  
案内方法として同窓会も活用する

17

## 5. 保育者養成校の学生による定期演奏会の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・保育者養成校を目指す高校生の中にはピアノ初心者の為、養成校の学びについて不安な生徒もいる。その不安を解消する方策として、養成校入学後の学びの軌跡を可視化できるように、ピアノが得意な者だけでなく、初心者で入学した1年次生や4年次生などが演奏するプログラムを盛り込む

### ②取組の課題・反省

- ・中高生への案内時期や案内方法
- ・今年度は案内時期が遅かったこともあり、高大連携校及び過去にオープンキャンパスに参加した高校生のみ案内したこともあって、来場者は学内関係者が多かった

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・次年度は、定期演奏会の日程（2024年12月20日）も決まっているので、高大連携校等における模擬授業時などで日程の案内を行う

18

## 6. 幼児教育の魅力を伝える動画作成とアンケートの実施の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・オープンキャンパスなどで高校生から受けた相談を踏まえて作成した動画なので、今後も幼児教育の魅力を発信する媒体として活用する
  - （1）幼稚園・保育園の一日
  - （2）実習生の一日
  - （3）幼稚園教諭を目指す大学生の一日

### ②取組の課題・反省

- ・学内の他の業務を行いながらの取り組みの為、作成に時間がかかり、動画の完成が後ろ倒しとなった

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・本学HP内への掲載
- ・オープンキャンパスでの放映
- ・学内外での進学ガイダンスでの放映
- ・保育者養成校の学生にも実習の様子や自身のキャリアを考える際の一助として活用する
- ・アンケート結果のさらなる分析により、高校生と保育者養成校生とで、幼児教育の魅力と感じる内容に違いがあるのかについて検証

19



2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（05\_大阪青山大学）

## 7. 幼児教育の魅力を伝えるTikTokの作成の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・3月以降も定期的にTikTokの作成・投稿を行う（投稿頻度については、現在検討中）
- ・学生が主体となり保育者養成校の学びと関連付けて、幼児教育・保育・福祉の魅力を発信する

### ②取組の課題・反省

- ・SNSの性質上、より多くの投稿を継続して行う必要があった為、担当教員・学生の負担感が大きかった
- ・動画視聴数に比べてフォロワー数が少ないので、引き続き、アカウントの周知を行う

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・今回は事業費の活用で動画編集を外注できたが、今後は学内で編集作業も行うことになるので、特定の教員・学生に負担が偏らないよう、学生をグループ分けしてシフトを組むなどの工夫、担当教員を複数にするなどの工夫を行う
- ・学生が中心となって、企画・編集を行い配信できるようにしていく
- ・「再生回数」等の高い動画を参考に、動画の作成や配信方法について考える

20

2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（05\_大阪青山大学）

## 8. 保育者養成校の学生が考えた幼児教育の魅力に関する活動の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

次の3つの成果より、次年度も同様の企画を実施する

- (1) 高校生と年代が近く、興味関心が似ていると思われる保育者養成校の学生の視点で幼児教育の魅力を考案・発信したことで、高校生の関心に沿ったプログラムになった
- (2) 1教室に様々なブースを設ける事で、高校生はより多くの保育者養成校の学生と交流が出来た
- (3) 保育者養成校の学生にとっても、「高校生に向けた魅力を考える」中で、幼児教育の魅力を再確認するきっかけになった

### ②取組の課題・反省

- ・受験シーズンに入っている為、夏のオープンキャンパスイベントに比べ、参加者数が少なかった

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・幼児教育を既に志望している高校生以外にも、進路研究のひとつとして体験・参加してみたいと思えるようなプログラムにする
- ・活動開始当初、緊張する高校生の姿が見られたので、アイスブレイクをいくつか用意しておく

21

## 9. 卒業生による講話及び交流の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ 保育者養成校の学生が卒業後のキャリア形成について考えるきっかけになったので、引き続き卒業生による講話や交流を行う  
（講話・交流の内容：就職を継続する秘訣とその為に在学中に取り組んでおいた方が良い事、ライフプランとキャリア形成など）
- ・ 演者である卒業生同士の交流から、各自が抱えている保育の悩み等を共有し解決していく場面が見られたので、講話・交流の後にその様な時間を持つ

### ②取組の課題・反省

- ・ 今年度は演者の卒業生を幼稚園教諭に限定したが、養成校の学生から「保育所や施設の話も聞きたい」という感想もあった
- ・ 日程に余裕を持った（前期の内から）計画立案をする

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ 幼稚園だけではなく保育所や施設で働く卒業生に講話・交流を依頼する
- ・ 今年度は日程が合わず卒業生が女性のみだった為、次年度は男性の卒業生にも依頼する

### 3.2.6 大阪キリスト教学院

#### 3.2.6.1 中間報告

## 06\_学校法人大阪キリスト教学院

【ICTを活用する「未来の幼稚園教諭」発掘・育成事業】

---

1

#### 選択したテーマ（06\_学校法人大阪キリスト教学院）

##### テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信

取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演

取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談

取組C： 養成校生との交流の機会の設定

##### テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援

取組E： 適切な職業紹介事業などの普及啓発

##### テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援

取組I： 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施

取組K： 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施

2

実施する各取組の計画・内容（06\_学校法人大阪キリスト教学院）

取り組み内容

誰に対して：連携している高校、現役生、OBOGなど  
何を：ICTを活用した未来の幼児教育  
どのように：オープンキャンパスやイベント

【ICTに取り組む背景】

担い手を増やす上で、幼児教育のやりがいや楽しさといった魅力を伝えることが最も大切です。

しかし、それだけでは不十分であると本学では考えています。マスメディアによる報道の中で、幼稚園教諭等の楽しさや働きがいよりも、責任の大きさや業務負荷の高さに対する給与の少なさ等が大きく伝わっており、中学生・高校生の場合は特に保護者が懸念を持っています。

そこで、既存の幼児教育の素晴らしさを伝えるだけでなく、中学生・高校生・養成校の学生・現役の保育者も含めて、ICTを活用した未来の幼児教育の現場もお伝えします。

◀ 興味のある部分をデジタル顕微鏡で拡大して見る。



対象物が動いて見えにくい為、録画機能を使い静止画で確認する様子。

文部科学省「幼児の体験を豊かにするICT実践事例集 令和3年度」より



KitsHPより

- (1) 取組A 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演
- (2) 取組B オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
- (3) 取組C 養成校生との交流の機会の設定
- (4) 取組E 適切な職業紹介事業などの普及啓発
- (5) 取組I 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施
- (6) 取組K 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施

	Step1	Step2	Step3	Step4(a)	Step4(b)
対象	中学生・高校生	中学生・高校生	養成校の学生	若手教諭	離職・休職中の方
課題	幼児教育についてよく知らない	養成校で学ぶ必要が想像できない	どのようなキャリアを置くべきかわからない。幼稚園教諭以外の職種も選択肢と考えている	キャリアに関して様々な悩みを抱えている	幼稚園に戻るにあたってのプランクが不安
あるべき姿	幼児教育のやりがい、楽しさ・未来について理解している	現役生と交流することで養成校で学ぶイメージを持つことができる	キャリアコンサルティング等への個別相談の中で、幼稚園への就職を決める	若手教諭の悩みを共有・相談し、教諭の定着率が高まっている	離職・休職中の教諭が持つプランクから来る不安感が取り除かれている
施策	・ 出前授業 ・ オープンキャンパスを活用した中高生向け模擬授業 ・ ICTの活用についても伝える	・ 養成校生との交流 ・ 幼児教育専門学校にてICTスキルアッププログラムの学生との交流も行う	・ 常設型のキャリアセンターの運営と個別相談 ・ 保育者の人材紹介を手掛ける民間企業との連携	・ 若手教諭向けホームカミングデーの実施 ・ 保育者の人材紹介を手掛ける民間企業との連携	・ 幼稚園での短期研修の受入と復職支援 ・ 保育者の人材紹介を手掛ける民間企業との連携
効果のポイント	・ こどものために働く職場のやりがい、楽しさ・未来を正しく伝えること	・ 現役生が実際の現場で制作した作品等を活用しながら、養成校での学び等を説明する	・ 保育者の人材紹介を専門的に行う企業の知見を活かした就職先の紹介	・ 人気がある絵本作家を招待することで若手教諭を集める（「集めることが最も大切」）	・ 産学だけでなく、実際に現場で幼児教育を行う場を提供すること
目標	延べ参加者数300名	延べ参加者数200名 ※Step1と重複あり	幼児教育専門学校等の幼児教育関連への就職率95%以上	延べ参加者500名	延べ参加者10名

3

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（06\_学校法人大阪キリスト教学院）

No	取り組み	ポイント	成果	課題
1	A 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演	ICTを活用した未来の幼児教育のやりがいや楽しさ、魅力を様々な角度から発信。	教育テックに関心を持ち、幼児教育×ICT人材になりたいと考えている生徒が15名。	初期的にはICTに関心を持っていない。そこで、中学生・高校生が関心を持っているインフルエンサーを絡めるなど、工夫が必要と考えている。
2	B オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談			
3	C 養成校生との交流の機会の設定			
4	E 適切な職業紹介事業などの普及啓発	本学キャリアセンター及び人材紹介会社と連携して実施。	キャリアセンターにOGを招き、個別相談を実施。また、人材紹介会社と連携することで、求人情報のデジタル化に成功（後者は本学、独自事業として実施）	—
5	I 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施	絵本作家を講師としてお招きする。	講師が決定。成果は12月。	—
6	K 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施	一度現場を離れた幼稚園教諭に対し、復帰しやすくする。	—	—



4

今後の予定（06\_学校法人大阪キリスト教学院）

- 11月** OGへ以下2点の案内
- ①若手教諭に向けたホームカミングデーの実施
  - ②円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施
- 12月** 絵本作家を招いたホームカミングデーの実施 ※12月23日予定
- 12月～1月** 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施

5

3.2.6.2 最終報告

## 06\_学校法人大阪キリスト教学院

【ICTを活用する「未来の幼稚園教諭」発掘・育成事業】

---

1

選択したテーマ（06\_学校法人大阪キリスト教学院）

**テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信**

取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演

取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談

取組C： 養成校生との交流の機会の設定

**テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援**

取組E： 適切な職業紹介事業などの普及啓発

**テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援**

取組I： 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施

取組K： 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施

2

実施した取組（06\_学校法人大阪キリスト教学院）

1 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演

---

2 オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談

---

3 養成校生との交流の機会の設定

---

4 適切な職業紹介事業などの普及啓発

---

5 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施

---

6 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施

---

3

2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果 (06\_学校法人大阪キリスト教学院)

4

適切な職業紹介事業などの普及啓発

②-E

【実施期間】 随時

【取組の概要】 人材育成・紹介業を手掛ける株式会社バリュー・スタッフと連携し、キャリアコンサルタントの資格を持つスタッフが面談を行った

【参加者】 本学で2024年4月以降に就職を考えている学生

▷ポイント/成果

- 株式会社バリュー・スタッフが持つキャリアプランに関するシートを活用した面談を行い、幼稚園等へ人材を送り込む取り組みを行った
- 自身の自宅からの距離を気にする学生が多かったため、求人情報を地図上で確認できるようにしたほか、ゲスト講師をお招きしたキャリアパスに関する特別講演会を追加施策として行なった



▷課題

- 一時的な面談だけでなく、入学時点から啓発していくことが求められる

4

2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果 (06\_学校法人大阪キリスト教学院)

5

若手教諭に向けたホームカミングデーの実施

③-I

【実施日時】 2023年12月23日 11:00～15:15

【取組の概要】 絵本作家をお招きした講演会及びワークショップ

【参加者】 現役保育者



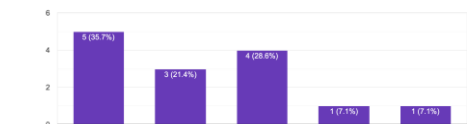
▷ポイント/成果

- 本学の20代～30代の卒業生に対して、DMでご案内をし、絵本作家をお招きした講演会及びワークショップを実施した
- 絵本作家という保育者が関心を持つテーマで案内をし、キャリア相談等につなげることが狙い（約6割が関心を持った）

▷課題

- 絵本作家及び土曜日という日程設定が、若手保育者に関心を持たれず、集客が困難であった

大阪キリスト教短期大学では、元保育者の現場復帰...なっています。ご関心の有無を教えてください。  
14件の回答



とても関心がある ← → 関心がない

5

【実施期間】 2024年1月（週2回）

【取組の概要】 現場を離れていた幼稚園教諭への幼稚園現場への復職支援

【参加者】 1名

▷ポイント/成果

- ・ 当初は若手の方を想定していたが、結果としてベテラン（60代）の方が希望してくださった。お話をさせていただく中で、経験豊富な方であったため、週2回（延べ6回）現場に入っていたきつつ、園をより良くするための意見交換を行った
- ・ 子育てが終わった元幼稚園教諭の復職を促すモデルとなり得る事例を作ることができた

▷課題

- ・ 若手の方とお話しをすると、研修自体に関心は持つものの、家庭との兼ね合いもあり、復帰までは短期間で話が進まなかった。年間を通じて、定期的にフォローする必要がある

## 1. 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

（1）保育体験、（2）ピアノレッスン、（3）ICT体験、という3つのコースを選べるようにして保育・幼児教育に関する体験ができるようにしたことは、高校生から好評であった。

### ②取組の課題・反省

ICT体験の部分については、実際に使われているソリューションを体験してもらったが、より実体験をもとに語る必要がある。

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

2024年1月より、付属園にICTサービス（スマートエデュケーション社「きつつ」）を導入。また、スマートエデュケーション社とは連携協定も締結し、幼児教育 ICTにおける活用方法を研究するとともに、その実体験も高校生に伝えるようにする。



## 2. オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

高校生と現役学生の個別相談は、高校生が養成校に通った場合の具体的なイメージを持つことにつながり、大変効果的であった。

### ②取組の課題・反省

今年度実施した模擬授業は学校選びの参考にはなったと思われるが、幼稚園教諭の掘り起こしへの寄与は小さかった。

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

そもそも、子どもと関わることで自体が少ないため、実際の園児と交流する機会を設ける。

8

## 3. 養成校生との交流の機会の設定の振り返り

①については、  
前スライドと  
同じコメントを記載

### ①成果が出て今後も継続したいこと

高校生と現役学生の個別相談は、高校生が養成校に通った場合の具体的なイメージを持つことにつながり、大変効果的であった。

その際、ドリンクやお菓子を用意して、会話しやすい空間を用意した。

### ②取組の課題・反省

面談のような形では話を聞くことが難しい学生もいたため、キャンパスツアーを交えて、歩きながら話を聞けるようにすることも大切であった。

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

机に座りながら話す時間と、歩きながらフランクに話せる時間のバランスを考慮して、全体的なプログラムを設計したい。

また、高校生が想像力を膨らませられるよう、実習で使用しているノート等を学生に必ず持たせる。

9

2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（06\_学校法人大阪キリスト教学院）

#### 4. 適切な職業紹介事業などの普及啓発の振り返り

##### ①成果が出て今後も継続したいこと

職業紹介に関する専門的なノウハウを有する株式会社バリュー・スタッフと連携を行い、学生と面談を行うことで、ほぼ全員が保育者になりたい意向を示すだけでなく、キャリアプランを考えられ、定着につながるのではないかと期待している。

##### ②取組の課題・反省

就職支援のタイミングでの面談だけでなく、入学時点から継続的に啓発していくことが求められる。

##### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

授業として「ライフプランニング」の講座を講師としてお招きし、実施する。

10

2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（06\_学校法人大阪キリスト教学院）

#### 5. 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施の振り返り

##### ①成果が出て今後も継続したいこと

絵本作家による講演会という直接的には幼稚園教諭の掘り起こしに繋がらない施策ではあったが、保育者が関心を持つテーマでイベントを実施すると、キャリア相談等につなげることはできるため、今後も様々な切り口でイベントを実施したい。

（今回のイベントの場合は、約6割が関心を持った）

##### ②取組の課題・反省

若手にとっては、絵本作家への関心が低かったこと（40代以上と温度差が大きかった）。

また、土曜日は家庭や仕事で忙しいケースが多く、日程については検討する必要がある。

##### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

若手OGが来やすくなるテーマ・時間を設定し、イベントを開催する。

そのために、事務局メンバーとして、本学のOGをチームメンバーに迎え、イベントを実施する。

（すでに若手OGとの打ち合わせは開始済み）

11

## 6. 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

子育てが終わったベテランの方を受け入れ、現場を体験することで、復職を促すことができた。

### ②取組の課題・反省

当初は若手を受け入れることを想定していたが、取り組みに対する関心はある一方で、その一歩を後押しするだけのメリット・モチベーションを提供することができなかった。  
また、情報発信量が足りていなかった。

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

子育てが終わった世代にターゲットを定め、復職を促す。  
現在は情報発信が郵送に依存しているため、LINEグループ等、デジタルチャネルを設ける。

## 3.2.7 奈良教育大学

### 3.2.7.1 中間報告

## 07\_国立大学法人奈良国立大学機構

【中高生、養成校生、現職保育者等の相互連関による親性育成・職の魅力向上のための好循環モデル“ひらいてつなぐ”の創出】

1

### 選択したテーマ（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

#### テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信

- 取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演
- 取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
- 取組C： 養成校生との交流の機会の設定

#### テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援

- 取組D： OB/OGなどとの交流会
- 取組G： 幼児教育施設や幼児教育センター等と連携した効果的なカリキュラムの開発
- 取組H： 複数園での実習の推奨

#### テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援

- 取組I： 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施
- 取組J： 体系的な現職研修の機会の確保

#### 取組L

取組A～Kのほか、幼児教育の「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出す観点から、特に効果が見込まれる先導的取組

2

実施する各取組の計画・内容（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

奈良教育大学が中高生、養成校生、現職保育者等を対象に、個別に行ってきた様々な取組を、エビデンスに基づく客観的な指標を用いて検証・評価し、効果的な取組に更新する。

①中高生を対象とした職の魅力発信

奈良県教育委員会等と連携し、高等学校や専攻科において大学教員が保育に関わる授業を実施する計画を進める。

②養成校生を対象としたキャリア形成支援→現場に入る授業

養成校生が、赤ちゃんを持つ保護者や妊婦さんとそのパートナーが参加する子育て支援イベントに参加し、イベントを手伝う → その後、大学に戻って実習授業に参加。

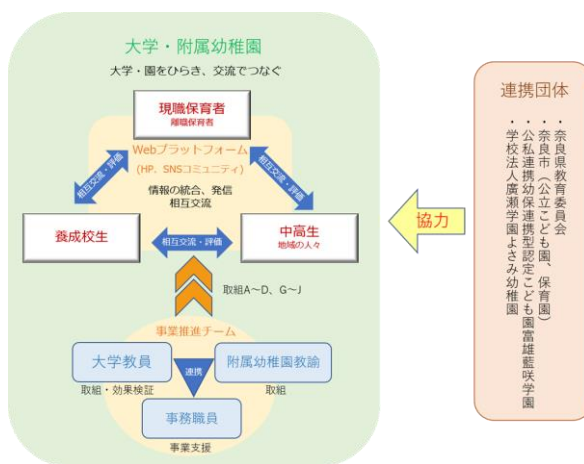
③現役教諭を対象としたキャリア形成支援

卒業後1年目の現職保育者を対象に園訪問し、卒業生の悩み等を伺うことにより定着率を高め、園が求める資質・能力を聞き取っている。訪問による保育者の心情の変化について検証する。

3

実施する各取組の計画・内容（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

Web上にプラットフォーム(HP)を作成し、情報の統合と発信を行うとともに、プラットフォーム内にSNS機能を含めることで高校生、養成校生、現職保育者等が相互に交流、情報交換を行える環境を整える。同時に、現実でのプラットフォームとして、奈良教育大学幼年教育専修と附属幼稚園が人材をつなげる。具体的には、中高生、養成校生、現職保育者等の全ての対象が参加できる参加型交流会を実施し、それぞれが相互に影響しあい、評価しあう人的資源として機能する機会を確保する。



4

実施する各取組の計画・内容（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

子どもに興味を持ち、共感し、保育するための基盤として親性育成が再注目されている。  
本取組では、ひらかれた附属幼稚園を活用するなどし、全ての対象者が実際に子どもと交流する機会を最大限に確保し、親性育成を軸とした職の魅力発信を行う。

「中高生、養成校生、現職保育者等の相互連関による親性育成・職の魅力向上のための好循環モデル“ひらいてつなぐ”の創出」の実施計画

月	①中高生を対象とした職の魅力発信	②養成校生を対象としたキャリア形成支援	③現職教諭・離職者を対象としたキャリア形成支援	情報の統合と発信効果検証
7	・全学オープンキャンパスの開催（取組B） ・個別相談（取組C）	・養成校生と中高生との交流・個別相談（取組D） ・就職活動支援（取組E） ・OB/OGとの交流会（取組D）	・卒業生・修了生に向けたSNSの開設と情報発信の開始（取組L）	・プラットフォーム（HP）の企画（取組L） ・取組評価票（質問紙）の完成 ・質問紙調査の試行
8	【参加型交流会①】先導的な教育・保育実施園の訪問 取組L 保育の実際と魅力を感じる 魅力ある保育について知る 魅力ある保育を創造する			・プラットフォーム完成（取組L）（以後コンテンツの充実） ・質問紙調査実施①と整理分析
9	・出前授業（取組A）	・8～9月複数園での保育実習・教育実習（取組H）	・現職研修（取組J）	
10	【参加型交流会②】養成校における保育の魅力発信 取組L 保育の今と未来を知る 保育の今と未来を考える 保育の今と未来を考え実践する			・質問紙調査実施②と整理分析
11	【参加型交流会③】附属幼稚園における園児と保育の魅力発信 取組L 子どもの姿に触れる 子どもの面白さを再発見する 子どもと共に保育を創る			・質問紙調査実施③と整理分析 【事業実施報告会】
12	・出前授業（取組A）	・OB/OGとの交流会（取組D）	・現職研修（取組J）	・質問紙調査①②③の分析とまとめ
1	・進路希望調査		・卒業後1年目の現職保育者を対象とした園訪問（取組L）	・プラットフォーム（HP）の内容精査と充実（完成）
2		【保育実習（取組H）】		・取り組みの成果提出 【事業実施報告会】

※各月【事業進捗レポート提出】

附属幼稚園と協働した保育者として求められる資質・能力を踏まえたカリキュラム開発(取組G)  
中高生、養成校生、現職保育者等の相互連関による親性育成・職の魅力向上のための好循環モデル“ひらいてつなぐ”の創出

5

実施する各取組の計画・内容（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

取り組みのポイント

- ① 各取組がどのような効果があるのか定量的・定性的に明らかにする。
- ② 中高生、養成校生、現職保育者等は、それぞれが相互に影響する人的資源となり得る。新たに開発・運営するプラットフォームを活用し、ホームカミングデーや先導的な教育・保育実施園の訪問等に中高生、養成校生、現職保育者等が参加し、それぞれの立場から交流することでどのように互いに影響を及ぼしているのかを検証し、さらには好循環を生み出すモデルを構築する。
- ③ キャリア形成や職の魅力向上の前に、子どもに興味を持ち、共感し、保育するための基盤が必要である。近年、人の発達を支えるにあたり共同養育の重要性が述べられ、そのために改めて親性が注目されている。そこで、親性を育成するための要素を各取組に含め、その効果を検証する。

6

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

## 7月の取り組み

### イベント①オープンキャンパス（取組B） 2023.7.2 実施 於：奈良教育大学



#### 【概要】

高校生27名を対象として、幼年教育専修での学びの内容とそのプロセスを説明した。特に保育者としての職の魅力について、実習等を経験した3年生の学生を中心に語り、高校生との交流を行った。

### イベント②カムカムベビー（取組L） 2023.7.15実施 於：附属幼稚園



#### 【概要】

妊婦とその家族を対象に、妊娠中に役立つ知識をつけてもらったり、妊娠期の悩みに答えたり、交流してもらうイベント「カムカムベビー」を附属幼稚園で実施した。

講師には助産師の資格を持つ畿央大学の岡いくよ教授をえ、5組の妊婦とその家族がイベントに参加した。

附属幼稚園の職員が運営に従事して経験を積むとともに、養成校生(3年)16名が「子どもの保健」の授業の一環としてイベントの運営に参加し、イベントに参加した家族と交流して子育て支援を体験した。

7

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

## 7月の取り組み

### イベント③授業での乳児保育体験（取組L） 2023.7.7,15実施 於：附属幼稚園



#### 【概要】

7月7日に養成校生（3年）16名を対象に、「子どもの保健」の授業の中で、赤ちゃん人形を使用した乳児保育の体験授業を行った。

授業内で、7月15日に附属幼稚園において実施される妊婦とその家族を対象としたイベント「カムカムベビー」の運営を手伝う上で必要な乳児保育、妊娠期のサポートの知識を事前に学んだ。

7月15日のイベントでは、養成校生が実際にイベントの運営に参加するとともに、イベントに参加した妊婦とその家族と交流し、実際の子育て支援の現場を授業内で体験した。

8

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

8月の取り組み

月	①中高生を対象とした職の魅力発信	②養成校生を対象としたキャリア形成支援	③現職教諭・離職者を対象としたキャリア形成支援	情報の統合と発信効果検証
8	【参加型交流会1】先導的な教育・保育実施園の訪問 取組L			・プラットフォーム完成（取組L）（以後コンテンツの充実） ・質問紙調査実施①と整理分析
	保育の実態と魅力を感じる	魅力ある保育について知る	魅力ある保育を創造する	

イベント①参加型交流会①先導的な教育・保育実施園の訪問（取組L）2023.8.24



学校法人あけぼの学園 幼稚園型認定こども園 あけぼの幼稚園にて園見学と交流会を行った。

【当日のプログラム】

園見学を行った上で、理事長の安家 周一先生（全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長）より園の理念や大切にしていることについてお話を伺った。その後、参加者全員を交えて意見交換を行い、互いの保育観・子ども観について語り合った。参加者は9名（保育者4名内園長2名、学生1名、教員3名、研究者1名）であった。



【事後アンケート】

「同じ保育を見て感じたことを横に並んで話をすることで、見る視点の違いや感じ方の違いを感じることができた。」 「学生からの子どもと保育者のどちらの目線にも立ったような質問を聞いて、素直さや柔軟性を感じ、自分の凝り固まった視点をほぐされたような感覚になりました。」などの肯定的な意見が多く、様々な立場の人々が一同に会し、保育について語り合うことを大切にしたいという本取組の意義を確認することができた。



9

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

8月の取り組み

イベント②えほん・手遊びLabo（取組D）2023.8.5 於：奈良教育大学えほんのひろば



【概要】

絵本のよみ聞かせと手遊びという保育の技術に焦点を当て、奈良教育大学の修了生でもある下田先生を講師にお迎えし、学生に向けた実践的な指導を行った。最後には、交流の場を設け、参加者同士および講師（保育者）と保育について語り合った。

【参加者】

奈良教育大学学生10名（1年生6名、2年生1名、3年生3名）、他大学院生1名（中国からの留学生）、他大学学生（男性1名）



【事後アンケート】

手遊びや読み聞かせのポイントを学ぶことができてよかったという感想以外に、中国の保育についての話を留学生から聞いたことや、学年を越えて、さらには他大学の学生とも交流できたことへの肯定的意見が多かった。また、現職の先輩の実体験に基づいた話を聞いたことも貴重な体験だったことが伺えた。

10



7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

## 9月の取り組み

### イベント①保育実習（取組H） 2023.8月中旬～9月中旬に実施 於：奈良市内の提携こども園、奈良県下の児童養護施設、乳児院

#### 【概要】

保育者を目指す奈良教育大学 幼年教育専修の2年と3年生計16名が、保育士資格の取得のため、奈良市内のこども園で10日間の保育所実習、奈良県下の児童養護施設や乳児院で10日間の保育実習を行った。幼稚園だけでなく、こども園や福祉施設など、多様な保育の場を経験することで、保育職が果たす社会的役割を実感することができる。また、多様な場で生きる子どもの姿を深く理解することにつながるだろう。

### イベント②教育実習（取組H） 2023.9.1～9.27に実施 於：附属幼稚園

#### 【概要】

保育者を目指す奈良教育大学 幼年教育専修の3年生計13名が、幼稚園教諭第一種免許の取得のため、奈良教育大学附属幼稚園で27日間の教育実習を行った。奈良教育大学附属幼稚園の教諭が実習生への指導を主導し、大学教員が実習生への指導やケアを行った。



11

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

## 9月の取り組み

### イベント③すくすくベビー（取組） 2023.9.13に実施 於：附属幼稚園



#### 【概要】

0ヵ月齢～12ヵ月齢の赤ちゃんとその保護者を対象に、子育ての知識をつけてもらったり、悩みに答えたり、交流してもらうイベント「すくすくベビー」を附属幼稚園で実施した。講師には助産師の資格を持つ畿央大学の岡いくよ教授を迎え、5組の赤ちゃんと保護者がイベントに参加した。附属幼稚園の職員が運営に従事して経験を積むとともに、畿央大学の養成校生が授業の一環としてイベントの運営に参加し、イベントに参加した家族と交流して子育て支援を体験した。

## 10月の取り組み

### イベント①学部個別進学説明会（取組B） 2023.10.1 実施 於：奈良教育大学



#### 【概要】

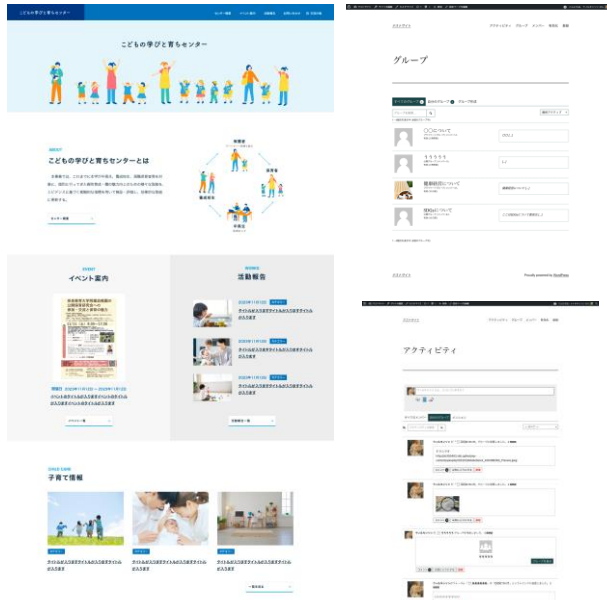
高校生とその保護者11組を対象として、幼年教育専修での学びの内容とそのプロセスを説明した。大学での学び、資格取得、就職、卒業生の保育者としての活躍などについて具体的に質問を受け、奈良教育大学で学んで保育者になることの魅力について、イメージを持ってもらった。

12

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗 (07\_国立大学法人 奈良国立大学機構)

10月の取り組み

イベント②Webプラットフォームの仕様決定会議 (取組L)  
2023.10.25 実施 於：奈良教育大学



【概要】

イベントに参加してくれた現職保育者、養成校生、中高生などをWebプラットフォームでつなげ、交流や情報発信を行う仕組みは本取り組みの根幹の1つである。

10月下旬にWebページ制作会社と仕様決定会議を開き、ページのホーム画面の作成、ログインしてクロードの空間で意見交換を行うための仕様の決定を行った。

11月中旬までに告知のためのホームページを、12月までにクロードの交流機能の運用を開始する予定である。

13

今後の予定 (07\_国立大学法人 奈良国立大学機構)

「中高生、養成校生、現職保育者等の相互連関による親性育成・職の魅力向上のための好循環モデル“ひらいてつなぐ”の創出」の実施計画

月	①中高生を対象とした職の魅力発信	②養成校生を対象としたキャリア形成支援	③現職教諭・離職者を対象としたキャリア形成支援	情報の統合と発信 効果検証
7	・全学オープンキャンパスの開催 (取組B) ・個別相談 (取組C)	養成校生と中高生との交流 ・就職活動支援 (取組E) ・OB/OGとの交流会 (取組D)	・卒業生・修了生に向けたSNSの開設と情報発信の開始 (取組L)	・プラットフォーム (HP) の企画 (取組L) ・取組評価票 (質問紙) の完成 ・質問紙調査の試行
8	【参加型交流会①】先導的な教育・保育実施園の訪問 取組L 保育の実際と魅力を感じる			魅力ある保育について知る
9	・出前授業 (取組A)	・8～9月 複数園での保育実習・教育実習 (取組H)	・現職研修 (取組J)	魅力ある保育を創造する
10	【参加型交流会②】養成校における保育の魅力発信 取組L 保育の今と未来を知る			・プラットフォーム完成 (取組L) (以後コンテンツの充実) ・質問紙調査実施①と整理分析
11	【参加型交流会③】附属幼稚園における園見学と保育の魅力発信 取組L 子どもの姿に触れる			・質問紙調査実施②と整理分析 【事業実地報告会】
12	・出前授業 (取組A)	・OB/OGとの交流会 (取組D)	・現職研修 (取組J)	・質問紙調査①②③の分析とまとめ
1	・進路希望調査		・卒業後1年目の現職保育者を対象とした園訪問 (取組L)	・プラットフォーム (HP) の内容精査と充実 (完成)
2		[保育実習 (取組H)]		・取り組みの成果提出 【事業実地報告会】

※各月【事業進捗レポート提出】

附属幼稚園と協働した保育者として求められる資質・能力を踏まえたカリキュラム開発(取組G)  
中高生、養成校生、現職保育者等の相互連関による親性育成・職の魅力向上のための好循環モデル“ひらいてつなぐ”の創出

14

今後の予定 (07\_国立大学法人 奈良国立大学機構)

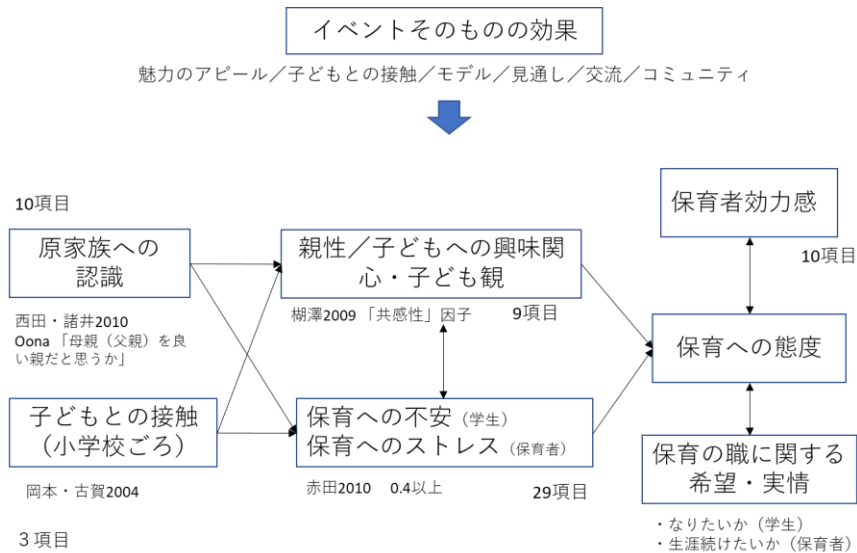
**参加型交流会③**  
**附属幼稚園における園見学と保育の魅力発信**  
**(取組L)**

2023.11.11 実施予定  
 於：奈良教育大学附属幼稚園

15

今後の予定 (07\_国立大学法人 奈良国立大学機構)

**参加型交流会③**  
**附属幼稚園における園見学と保育の魅力発信 (取組L)**



16

今後の予定 (07\_国立大学法人 奈良国立大学機構)

**参加型交流会②**  
**養成校における保育の魅力発信 (取組L)**

2023.12.17 実施予定  
於：奈良教育大学

※参加型交流会②「養成校における魅力発信」は  
現職保育者の参加のしやすさを考慮し、  
10月の実施を延期して、  
12月の中旬に実施することとした



17

### 3.2.7.2 最終報告

## 07\_国立大学法人奈良国立大学機構

【中高生、養成校生、現職保育者等の相互連関による親性育成・  
職の魅力向上のための好循環モデル“ひらいてつなぐ”の創出】

1

選択したテーマ（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

<b>テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信</b>
取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演
取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
取組C： 養成校生との交流の機会の設定
<b>テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援</b>
取組D： OB/OGなどとの交流会
取組G： 幼児教育施設や幼児教育センター等と連携した効果的なカリキュラムの開発
取組H： 複数園での実習の推奨
<b>テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援</b>
取組I： 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施
取組J： 体系的な現職研修の機会の確保
<b>取組L</b>
取組A～Kのほか、幼児教育の「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出す観点から、特に効果が見込まれる先導的取組

2

実施した取組（07\_国立大学法人 奈良国立大学機構）

- 1 オープンキャンパス
- 2 カムカムベビー
- 3 授業での乳児保育体験
- 4 【参加型交流会】先導的な教育・保育実施園の訪問①
- 5 えほん・手遊びLabo
- 6 保育実習
- 7 教育実習

3

- 8**      **すくすくベビー**
- 9**      **学部個別進学説明会**
- 10**     **Webプラットフォームの作成**
- 11**     **附属幼稚園における園見学と保育の魅力発信**
- 12**     **養成校における保育の魅力発信**
- 13**     **子育て広場ノルでの絵本のひろばの開催**
- 14**     **知ろう・話そう保護者支援**
- 15**     **【参加型交流会】先導的な教育・保育実施園の訪問②**
- 16**     **調査を踏まえたカリキュラム開発**

**10**      **Webプラットフォームの作成** L

【実施期間】：2024.2.1 オープン  
 【URL】 <https://c-child.nara-edu.ac.jp/>

【取組の概要】  
 本事業では、Web上にプラットフォーム(HP)を作成し、情報の統合と発信を行うとともに、プラットフォーム内にSNS機能（交流の場）を含めることで高校生、養成校生、現職保育者等が相互に交流、情報交換を行える環境を整える。

▷ **ポイント/成果**

作業が遅れ、2月に開設をしたばかりである。現在、過去の取組などについての成果を、HP上で公開する準備を進めている。同時に、2月に開催予定の取り組み（先導的な教育・保育実施園の訪問第2弾）については、参加者の登録を行い、「交流の場」における相互交流、情報交換を実施する予定である。

▷ **課題**

交流の場が盛り上がるように、登録者数を増やすことや、交流のための話題提供など、単発的に終わるのではなく継続的に運用を進めていく仕掛けづくりが今後の課題である。



11 附属幼稚園における園見学と保育の魅力発信

【取組の概要】2023.11.11 附属幼稚園において、保育の実際に触れるとともに、その魅力やおもしろさを養成校生、現職保育者、高校生らとともに語り合う交流会を実施した。参加者は、養成校生30名（1年生16名、2年生1名、3年生13名）、現職保育者3名、高校生1名であった。

ポイント/成果

- ・保育見学を通して、子どもに対する気持ちのポジティブな変化=実際の保育の場に身を置き、体験することで保育の魅力を感じる事ができる。  
31名（94%）がポジティブな変化を報告。例）「子どもたちの楽しそうな姿を見て、保育者として関わりたいという気持ちが強くなった（学生）」「保育者の方々が、子どもたちと楽しそうに遊んでいる姿を見て、子どもたちと一緒に成長していけるこの仕事の魅力を感じました（学生）」
- ・立場の異なる者同士が子どもや保育について語り合う場の重要性  
交流会については、「実習を終えた学生さんやこれからという学生さんもいて、色々な意見を得ることができ、色々な視点があっというし、保育に正解はなく、それでこそ保育は面白いのだと再確認できた（保育者）」「学生の話聞いて学生時代の気持ちを思い出せた。視点が新鮮で面白かった（保育者）」

課題

- ・高校生が1名の参加であった。他大学の学生など、もっと幅広い層へ参加を募り、交流の機会を増やしたい。



保育見学

交流会

16 調査を踏まえたカリキュラム開発

②-G

ポイント/成果

【現状分析】

- ・学生対象の調査（n=32）から、「保育に関わる悩みや不安」へのアプローチは、保育の魅力発信のみでは軽減が難しいことが伺えた。学生は保育やその関連の職を希望しており、子どもが好きであり、保育という職の魅力についても感じている。しかし、保育という仕事の責任の重さや、難しさ、そして待遇面への懸念などから漠然とした不安も感じており、今後、これらの「悩み」や「不安」に対応する支援が求められるといえるだろう。

【検証内容】

- ・子どもへのあたたかなまなざしや共感という保育者に必要不可欠な資質・能力を育むための体験や研修の在り方、保育の魅力を感じ保育職を継続したいと思えるような教育・研修の在り方を検証し、より効果的な教育・研修カリキュラム（養成段階、現職者研修も含む）の内容の精査に結果させていきたい。
- ・現在 Figure 2をモデルとした調査を予定している。保育者、養成校生、他学部学生を対象として2月中に実施し、分析を行いたい。

課題

- ・調査結果を踏まえて、学生、現職教員のニーズに沿ったより効果的な教育・研修カリキュラムを構築したい。

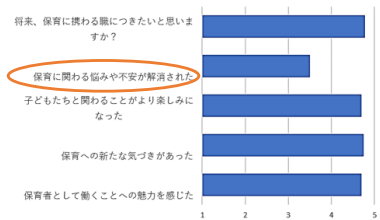


Figure 1. 「11. 附属幼稚園における園見学と保育の魅力発信」についての振り返りアンケートより

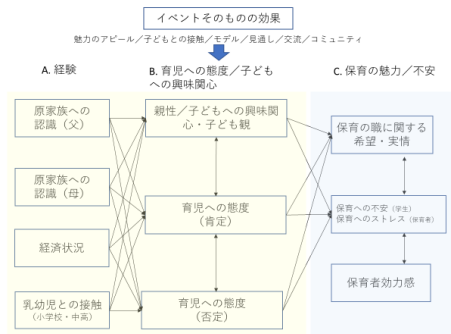


Figure 2. 検証モデル

## 1. オープンキャンパスの振り返り

### 9. 学部個別進学説明会の振り返り

7月、9月実施

【取組の概要】7月にオープンキャンパスを実施し、本学の幼年教育専修での学びの内容とそのプロセスを説明した。特に保育者としての職の魅力について、実習等を経験した3年生の学生を中心に語り、高校生との交流を行った27名の高校生が参加した。10月には、学部個別進学説明会を実施した。高校生とその保護者11組が参加し、幼年教育専修での学びの内容とそのプロセスを説明した。大学での学び、資格取得、就職、卒業生の保育者としての活躍などについて具体的に質問を受け、奈良教育大学で学んで保育者になることの魅力について、イメージを持ってもらった。



#### ①成果が出て今後も継続したいこと

- 参加者が具体的な進学ビジョンを持ってきて、実際に幼年教育専修を受験しているオープンキャンパス、学部個別進学説明会ともに、ある程度的人数の方が参加していただき、参加者の質問や会話から具体的に奈良教育大学の幼年教育専修に進学したいという希望を持っている学生が参加してくれていることがわかった。質問内容は、奈良教育大学に入学した後の生活や実習、資格、その後の保育者として就職することに關するものが多く、ここで保育職の魅力に関わる説明をすることが重要であると感じた。実際に、オープンキャンパスや説明会参加者が幼年教育専修を受験して入学してきており、今後もこれらのイベントは毎年続けていく予定である

#### ②取組の課題・反省

#### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- 印象として、他学と迷っている人や本学のことをそこまで知らない人が参加していないので、異なるアウトリーチとの併用が必要かもしれない。また総合型選抜に不安を持つ人が多いので、入試の改革が必要であるとする。

## 2. カムカムベビーの振り返り

### 3. 授業での乳児保育体験の振り返り

### 8. すくすくベビーの振り返り

7月、9月、2月 計3回実施

【取組の概要】妊婦とその家族を対象に、妊娠中に役立つ知識をつけてもらったり、妊娠期の悩みに答えたり、交流してもらいイベント「カムカムベビー」を7月に、0か月齢～12か月齢の赤ちゃんとその保護者を対象に、子育ての知識をつけてもらったり、悩みに答えたり、交流してもらいイベント「すくすくベビー」を9月にそれぞれ附属幼稚園で実施した。講師には助産師の資格を持つ畿央大学の岡いよいよ教授を迎え、5組の妊婦とその家族がイベントに参加した。附属幼稚園の職員が運営に従事して経験を積むとともに、養成校生は授業の一環としてイベントの運営に参加し、保護者と交流して子育て支援を体験した。



カムカムベビー



すくすくベビー



授業での乳児体験

#### ①成果が出て今後も継続したいこと

- 保育の場で、子育てをする保護者、専門家、保育者、養成校生のつながりを育んだ附属幼稚園において、適切で専門的な援助が提供される子育て支援の場を作るとともに、そのつながりを養成校生にまで広げて実施することができた。イベントに参加した保護者からの評判もよく、複数回、複数の子どもさんと参加して下さる方も多い。またその場に養成校生が入る教育的効果も高く、今後もイベントを継続する。

#### ②取組の課題・反省

#### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- より広く、実際に現地で参加してくれた人以外にもこのようなイベントを拡大したい。また、イベントを担当される専門家、保育者の世代交代を今後うまく行い、同様の趣旨のイベントを維持したい。



#### 4. 【参加型交流会】先導的な教育・保育実施園の訪問①の振り返り

【取組の概要】園見学を行った上で、理事長の安家周一先生（全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長）より園の理念や大切にしていることについてお話を伺った。その後、参加者全員を交えて意見交換を行い、互いの保育観・子ども観について語り合った。参加者は9名（保育者4名内園長2名、学生1名、教員3名、研究者1名）であった。

##### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・他園の取り組み、子どもへの関わりを見ることの効果  
交流会では、積極的に意見が交換され、参加した現職保育者にとっては、他園を見ることが自分の保育を客観的に振り返る機会になっていた。また、自園を離れるという非日常の経験自体が、保育者の心にとてもゆとりをもたらすという意見もあり、今日学んだことを明日の保育に活かしていきたいという思いが語られた。
- ・立場の異なる者同士が子どもや保育について語り合う場の重要性  
「同じ保育を見て感じたことを横に並んで話をすることで、見る視点の違いや感じ方の違いを感じることができた（保育者）」「学生からの子どもと保育者のどちらの目線にも立ったような質問を聞いて、素直さや柔軟性を感じ、自分の凝り固まった視点をほぐされたような感覚になりました（保育者）」などの肯定的な意見が多く、様々な立場の人々が一同に会し、保育について語り合うことを大切にしたいという本取組の意義を確認することができた。

##### ②取組の課題・反省

##### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・事前の準備期間が少なく、中高生などの募集ができなかった。今後より多くの参加者を募りたい。



令和5年度 文部科学省委託事業  
「中学生、高校生、現職保育者等の相互理解による  
個性育育・質の向上に向けた幼児保育実習」の一環として「つなぐ」の創出」

本事業は、中学生、高校生、現職保育者等と連携し、幼稚園・保育園のフィールドを  
活用し、各々の視点・経験・知識を共有し、幼児保育に関する課題の発見・解決に  
取り組むことにより、「質」の向上と人材育成の両立を図ることを目指しています。

【取組の目的】 各機関の連携・協働による幼児保育の質の向上を図ることを  
目的とし、各機関のフィールドを活用し、各々の視点・経験・知識を共有し、幼児  
保育に関する課題の発見・解決にに取り組むことにより、「質」の向上と人材育成の  
両立を図ることを目指しています。本事業の期間は、令和5年7月～令和6年3月  
の予定です。

開催日	2023.8.24(木)	当日のスケジュール
申込締切日	2023.8.21(月)	9:30 受付開始
参加費	無料	9:30-11:00 園見学
交通費	振込給	11:00-12:00 交流会

学校法人あけぼの学園  
幼稚園部認定こども園 あけぼの幼稚園 奈良県北葛城郡広陵町南園部1-1-1  
〒900-0822 広陵町南園部1-1-1 園長 安家周一



#### 5. えほん・手遊びLaboの振り返り

#### 14. 知ろう・話そう保護者支援

【取組の概要】 本学卒業生でもある講師の下田先生をお招きし、保育者の立場から、学生に保護者支援や絵本の読み聞かせ、手遊びなどについて実践的に指導いただいた。当日は、他大学の学生や留学生、現職保育者なども交えてアットホームな雰囲気での交流ができた。

##### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・現職の先輩の実体験に基づいた話を聞く貴重な体験  
少人数の集団で、保護者支援の困難さややりがい、楽しさなどを語り合えた。学生からは、「正解はないけれど、正解がないからこそ怖がり過ぎる必要はなく、できることから始めていけばいいのだと感じた」などの感想が寄せられた。
- ・立場の異なる者同士が子どもや保育について語り合う場の重要性  
例）「社会に出てから学生さんとの交流はほとんどなかったもので、学生さんの目線で不安な気持ちを聞くことができ、初心を思い出す機会になった（保育者）」「中国の保育についての話を留学生から聞いたこと、中国の絵本の違いについても知ることができおもしろかった（学生）」など、学年さらには他大学の学生を含め、多様な立場の人と交流できたことがよかったという意見があった。
- ・授業とは異なる自主的な学びの空間で、のびのびと交流できる機会がよかった。

##### ②取組の課題・反省

- ・現職保育者も含めた継続的なメンバーの確保。

##### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・学生や現職のニーズに沿った研修会を開催していきたい。

広がって保育の種・自分の世界  
知ろう・話そう保護者支援  
保護者の種を広げよう 自分の世界を広げよう  
えほん・手遊びLabo

保護者支援への不安を「大丈夫」へチェンジ！  
「保護者支援の大切さを知りたい」  
「子どもと関わる楽しさを知りたい」  
「子どもと関わる楽しさを知りたい」

本学卒業生講師、お招き！  
講師：下田先生（現職保育者）  
講師：下田先生（現職保育者）  
講師：下田先生（現職保育者）

日時：2024年1月27日（土）10:30～12:30  
場所：奈良県立大学 図書棟5F 501号室  
対象：保育者や保護者、学生、現職保育者など  
定員：10名程度

申込受付中から

保護者支援への不安を「大丈夫」へチェンジ！  
「保護者支援の大切さを知りたい」  
「子どもと関わる楽しさを知りたい」  
「子どもと関わる楽しさを知りたい」

本学卒業生講師、お招き！  
講師：下田先生（現職保育者）  
講師：下田先生（現職保育者）  
講師：下田先生（現職保育者）

日時：2024年1月27日（土）10:30～12:30  
場所：奈良県立大学 図書棟5F 501号室  
対象：保育者や保護者、学生、現職保育者など  
定員：10名程度

申込受付中から



## 6. 保育実習の振り返り

## 7. 教育実習の振り返り

保育所実習：8月、2月に実施  
施設実習（児童養護施設）：9月に実施  
幼稚園実習（附属幼稚園）：9月に実施



### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・実習を3回実施する（希望者は4回）ことは学生にとっても、大学にとっても大きな負担となるが、現場と大学とを往還し、子ども達と直に触れ合いながら学びを深めていくことは意義がある。
- ・幼稚園での実習のみならず、保育所（子ども園）、児童養護施設など、子どもが生きる多様な場を理解することにつながると考えられる。
- ・保育者という仕事が、子どもの教育と福祉に関わる幅広い資格であることを理解することにつながる。

### ②取組の課題・反省

- ・本学の実習は、附属幼稚園、奈良市の公立こども園に依頼している。  
幼児教育・保育施設としては、全国的に多数派となる私立園を見る機会が少ない。
- ・コロナ禍で、学年を超えた交流や学びの場が減少した。それを復活させていきたい。

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・私立園も含めた実習先を検討する。
- ・学年を超えた学生相互の学びの場を増やしていく。

12

## 10. Webプラットフォームの作成の振り返り

【実施期間】：2024.2.1 オープン

【URL】 <https://c-child.nara-edu.ac.jp/>

### 【取組の概要】

本事業では、Web上にプラットフォーム(HP)を作成し、情報の統合と発信を行うとともに、プラットフォーム内にSNS機能（交流の場）を含めることで高校生、養成校生、現職保育者等が相互に交流、情報交換を行える環境を整える。

### ①成果が出て今後も継続したいこと

作業が遅れ、2月に開設をしたばかりである。現在、過去の取組などについての成果を、HP上で公開する準備を進めている。同時に、2月に開催予定の取り組み（先導的な教育・保育実施園の訪問第2弾）については、参加者の登録を行い、「交流の場」における相互交流、情報交換を実施する予定である。

### ②取組の課題・反省

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

交流の場が盛り上がるように、登録者数を増やすことや、交流のための話題提供など、単発的に終わるのではなく継続的に運用を進めていく仕掛けづくりが今後の課題である。

13

## 11. 附属幼稚園における園見学と保育の魅力発信の振り返り

【取組の概要】附属幼稚園において、保育の実際に触れるとともに、その魅力やおもしろさを養成校生、現職保育者、高校生らとともに語り合う交流会を実施した。参加者は、養成校生30名（1年生16名、2年生1名、3年生13名）、現職保育者3名、高校生1名であった。

### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・保育見学を通して、子どもに対する気持ちのポジティブな変化がみられた。実際の保育の場に身を置き、体験することで保育の魅力を感じることができたという声が多かった。アンケート調査では、31名（94%）がポジティブな変化を報告していた。例）「子どもたちの楽しそうな姿を見て、保育者として関わりたいという気持ちが強くなった（学生）」「保育者の方々が、子どもたちと楽しそうに遊んでいる姿を見て、子どもたちと一緒に成長していけるこの仕事の魅力を感じました（学生）」
- ・立場の異なる者同士が子どもや保育について語り合う場の重要性交流会については、「実習を終えた学生さんやこれからという学生さんもいて、色々な意見を得ることができ、色々な視点があっていいし、保育に正解はなく、それこそ保育は面白いのだと再確認できた（保育者）」「学生の話聞いて学生時代の気持ちを思い出せた。視点が新鮮で面白かった（保育者）」

### ②取組の課題・反省

- ・高校生が1名の参加であった。他大学の学生など、さらに幅広い層へ参加を募り、交流の機会を増やしたい。

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・早期に募集を開始し、幅広く広報を行う。



保育見学



交流会

## 12. 養成校における保育の魅力発信の振り返り

【取組の概要】「Home Coming Day」の開催。31名参加（卒業生19名、在学生12名）

第一部 横山真貴子先生の講演会

「子どもとともに未来をつくる：保育者を目指すみなさんへのメッセージ」

第二部 交流会（保育の未来を語る）

グループに分かれてテーマごとの交流会を行った。「保育者になってよかった／保育者になってこんな保育をしたい、最近おもしろいと感じた子どもの姿、幼年教育で記憶に残る授業」など、テーマ案に基づきながら意見を交換した。

### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・保育の魅力を感じている方の講演会を聞くことの効果「横山先生がすごく愛おしそうに子どもたちの姿を伝えてくださるので、私もこれから子どもたちに出会うのがより楽しみになりました（学生）」「保育の面白さを改めて感じ、下がり気味だったモチベーションをまた上げることができました（保育者2年目）」「保育士はとても誇りを持てる仕事なのだ改めて感じました（保育者1年目）」など。

・立場の異なる者同士が子どもや保育について語り合う場の重要性

「先輩の方々に現場の話、大学の頃の話などたくさんの経験をお話していただいて、将来の見通しを持ってたとともにとても楽しみになりました（学生）」「同じ場所で働いていなくても、仲間がたくさんいることに気づけて心強く、温かな気持ちになりました（保育者5年目）」「学生さんがボランティア等、一生懸命頑張っていることを聞かせてもらって、現場ももっと頑張らないといけないと思いました（保育者5年目）」

### ②取組の課題・反省

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・今年度は、卒業後5年ほどの保育者の方を中心に集まっていた。今後、継続的に実施しながら、卒業後の保育者のフォローを行っていききたい。特に卒業後1年目の学生のフォローなども再開したい。



### 13. 子育て広場ノルでの絵本のひろばの開催

【取組の概要】奈良市の子育て広場ノルにて奈良教育大学幼年教育専修の学生が参加し、「絵本のひろば」を開催した(11月と12月に2回開催)。当日は、各回5組の親子が参加し、0～2歳の子もたちとその親子とともに、絵本の読み聞かせ、手遊びなどを行った。その後、保護者の方も交えて交流を行った。



#### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・実習とは異なる立場で乳幼児と交流できる貴重な機会  
学生は、8月に保育所実習を行い乳児との触れ合い経験はあったものの、実習という緊張感のある場ではなく、のびのびと参加できる場だったこともあり、子どもたちとの関わりをリラックスして楽しめたという意見が多かった。
- ・保護者の方の話しを聞くことができる貴重な機会  
学生にとっては、保護者の方から直に話を伺う機会は少なく、貴重な経験となった。
- ・大学での学びを直に子どもや保護者に届けることができる  
新型コロナ禍の中、実践発表ができる機会が限られていた。発表の場があることで、学びの意欲も高まると思われる。また実習生として学ぶ立場ではなく、保育者(の卵)として、責任もってイベントを運営する機会となる。

#### ②取組の課題・反省

- ・今年度初めての取組だったこともあり、授業の中で、イベント開催に向けた準備の十分な時間がとれなかった。

#### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・実習以外にも乳幼児と関われる機会、自分たちの学習の成果を発表する機会を増やしていくことは養成校としての役割の1つである。継続して取り組みたい。
- ・授業の中に位置づけて、学生の負担も少なく参加できる機会としたい。

16

### 15. 【参加型交流会】先導的な教育・保育実施園の訪問②

【取組の概要】前回の参加型交流会の参加者は9名であったが、第二弾のお茶の水女子大学附属幼稚園では、十分な周知を行ったため、21名の参加希望者がいた。しかし、園のご意向により、15名の参加とした。内訳は、大学教員、幼稚園教員、こども園保育教諭、市職員、学生である。

2月20日実施予定であるため、今回の報告書には間に合わなかった。前回と同様に、園見学後、副園長 高橋陽子先生にお話しを伺い、そして参加者全員を交えて意見交換を行い、互いの保育観・子ども観について語り合う予定である。

また、Web上にプラットフォーム内の、SNS機能(交流の場)にて、他の養成校生や現職保育者等が相互に交流、情報交換を行う予定である。

#### ①成果が出て今後も継続したいこと

2月20日実施予定。

#### ②取組の課題・反省

2月20日実施予定。

#### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

2月20日実施予定。

**先導的な教育・保育 実践園の訪問**  
お茶の水女子大学附属幼稚園

2月20日 (Tue)

9:00 現地集合  
9:20~ 幼稚園紹介(スライド)  
10:00~ 保育参観  
11:30~ まとめ・質疑応答

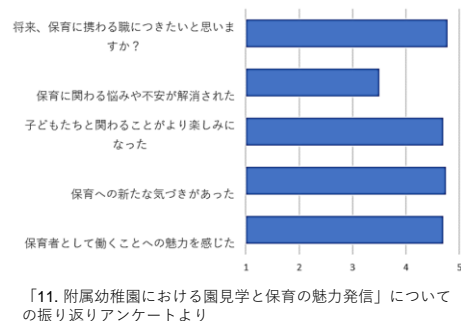
■会場 お茶の水女子大学附属幼稚園  
■申し込み 2024.2.9(金)  
■参加費 無料  
■申し込み方法 申込フォームにて  
■日時 2024.2.20(火) 9:00~12:00

17

## 16. 調査を踏まえたカリキュラム開発の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

- ・学生対象の調査（n=32）から、「保育に関わる悩みや不安」へのアプローチは、保育の魅力発信のみでは軽減が難しいことが伺えた。学生は保育やその関連の職を希望しており、子どもが好きであり、保育という職の魅力についても感じている。しかし、保育という仕事の責任の重さや、難しさ、そして待遇面への懸念などから漠然とした不安も感じており、今後、これらの「悩み」や「不安」に対応する支援が求められるといえるだろう。
- ・現在、子ども時代の「乳幼児との接触経験」と「現在の子どもへの興味関心」や「育児への態度」「保育職に関する希望」「保育への不安やストレス」などを関連付けたモデルを作成して調査を予定している。
- ・子どもへのあたたかなまなざしや共感という保育者に必要不可欠な素養を育むための体験や研修の在り方、保育の魅力を感じ保育職を継続したいと思えるような教育・研修の在り方を検証し、より効果的な教育・研修カリキュラム（養成段階、現職者研修も含む）の内容の精査に結び付けていきたい。



### ②取組の課題・反省

- ・現在、保育者、養成校生、他学部学生を対象とした調査を実施している段階である。2月中に帳票を回収し、分析を行いたい。

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・調査結果を踏まえて、学生、現職教員のニーズに沿ったより効果的な教育・研修カリキュラムを構築したい。

### 3.2.8 鳴門教育大学

#### 3.2.8.1 中間報告

## 08\_国立大学法人 鳴門教育大学

【「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業】

---



## 選択したテーマ（08\_国立大学法人 鳴門教育大学）

### テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信

- 取組A： 保育体験等の実施，幼児教育の重要性に関する講演
- 取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
- 取組C： 養成校生との交流の機会の設定

### テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援

- 取組D： OB/OGなどとの交流会
- 取組G： 幼児教育施設や幼児教育センター等と連携した効果的なカリキュラムの開発
- 取組H： 複数園での実習の推奨

2

## 実施する各取組の計画・内容（08\_国立大学法人 鳴門教育大学）

- 県内養成校、幼、小、中、高、教育委員会が参画した、幼稚園教諭等の「職」の魅力向上と人材確保のための県内ネットワークを構築し、取り組み参加後のアンケート内容を分析し、発信方法や内容、教員養成の成果について検討する（A、G）
- メタバースで「幼稚園教諭の職の魅力発信空間（仮称）」を構築し、次のようなコンテンツを創出し運用する。「せんせいのお仕事」例えば仕事の内容、権利、福利厚生、「せんせいほど素敵な仕事はない」例えば、子どもとの感動エピソード、やりがい等についての先輩からの一言、「いっしょに話そう」例えば、適性相談、悩み相談、アドバイスなど（B、C、D）
- 県内の養成校と連携しながらオープンキャンパスでの授業や模擬保育、幼児とのふれあい体験などを実施し、効果のある内容や方法について明らかにし、ハンドブックを作成する（A、B、C、H）
- 県内の小中高校への出前授業・講演を行い、児童生徒が感心や共感をもった内容について分析する（A、C、D）
- DXによる興味や関心の掘り起こしから、実際の養成校でのイベントや幼稚園等の現場へのアプローチに至るプロセスを分析し、効果的な発信方法と誘導方法について明らかにする（A、B、C、D）

3

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗 (08\_国立大学法人 鳴門教育大学)

● 大学の授業体験 (7月21日～27日「1日鳴教大生」)  
(参加26名)

幼児教育の目的や保育内容について大学生と一緒に学習した。講義や演習を体験する中では、幼児期の発達の特徴と指導方法の関連性、幼児の心理への関心が強かった。(P9参照)



● 模擬保育「遊びのワークショップ」  
(7月29日「オープンキャンパス」) (参加56名)

模擬保育では遊びを体験し、遊びの意義や面白さ、指導のコツやポイントについて学んだ。遊びを通して行う総合的指導の実験を体験することで、幼児の遊びが理解できた様子であった。  
(右上写真とP9参照)

● 小学校5年生への出前授業「幼稚園で待ってるよ！～幼児を育てる仕事の楽しさとやりがい～」 (参加97名)

出前授業では導入の集団遊びを体験することで、遊びを通しての指導が幼児期の発達を促すことについて学ぶことができた。また、保育実践の動画視聴によって、多様な遊びが意図的・計画的な環境構成と指導で展開されることが理解できた。  
(右下写真とP9、P10参照)



\* 実務家教員の保育の実際と、研究者による理論的裏付けのバランスのよい提供が幼稚園教員の専門性の高さの理解や憧れにつながる。  
「こどもが好き」の先にあるやりがいや誇りを形成することが課題である。

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗 (08\_国立大学法人 鳴門教育大学)



追加 出前授業から

## 音節分解

・「ゴリラ」→ご・り・ら

・しりとり

・回文「たけやぶやけた」



音声言語(話し言葉)と文字言語の発達







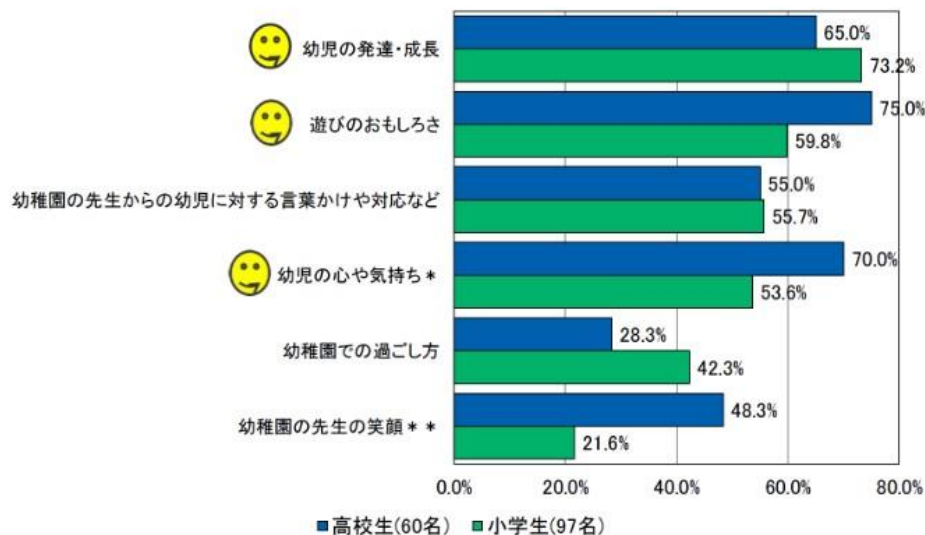
## 調査方法

各イベント実施直後、幼稚園教員の仕事への関心や魅力についてアンケートを実施した

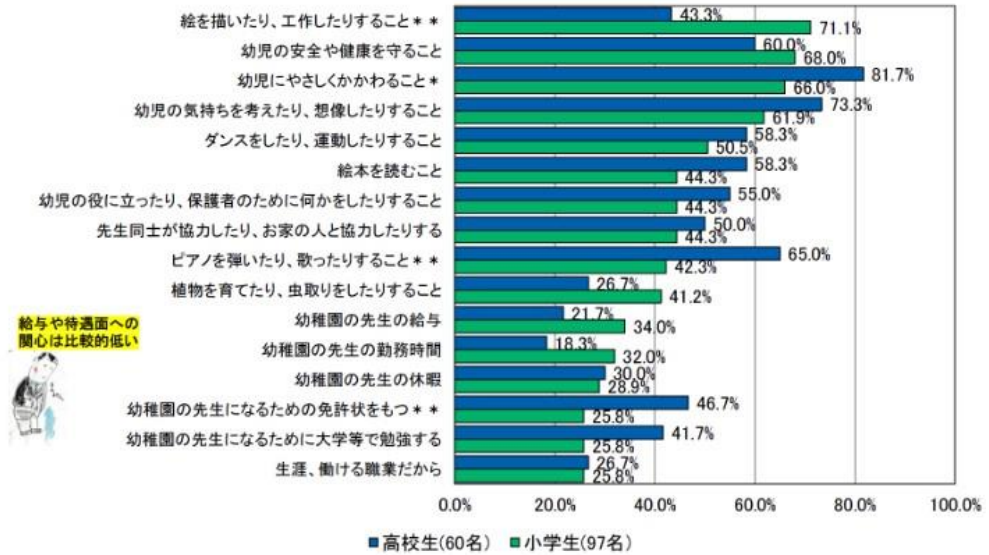
- **調査対象**：高校生97名（1年生10名・2年生22名・3年生28名）、  
小学5年生97名 合計157名
- **調査方法**：高校生には携帯電話などの端末からQRコードを読み取って  
web上で回答してもらった。  
小学生は自分のタブレットからURLへアクセスして回答してもらった
- **調査内容**：①模擬授業等の感想、②幼稚園教員の魅力、  
③幼稚園教員になりたいか、④なりたい理由、なりたくない理由

	小学生	高校生	合計
女性	49名	57名	106名
男性	48名	3名	51名
合計	97名	60名	157名

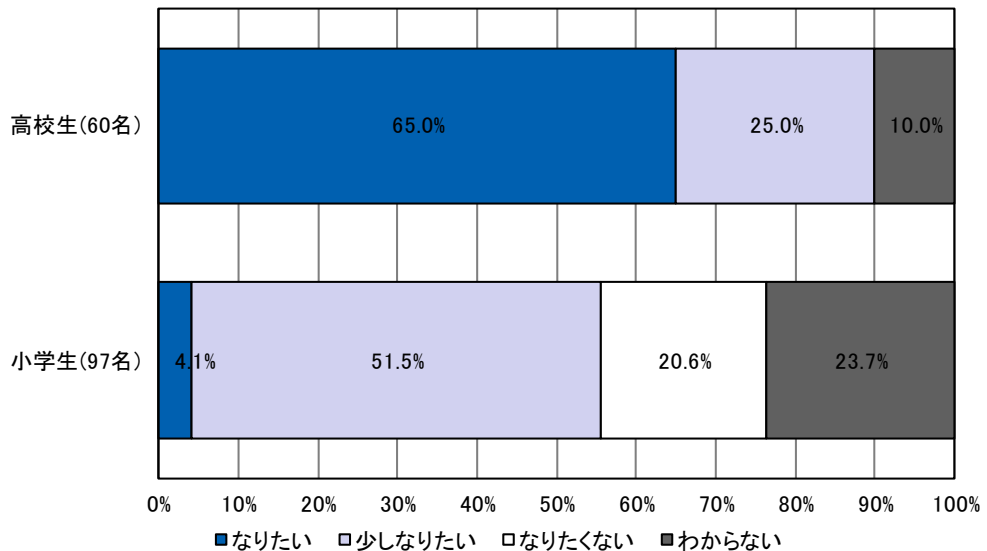
### 本日の授業に参加して、あなたが興味をもったことは何ですか？



もし幼稚園の先生になったら、あなたが魅力に感じること、興味があると思うことは何ですか？



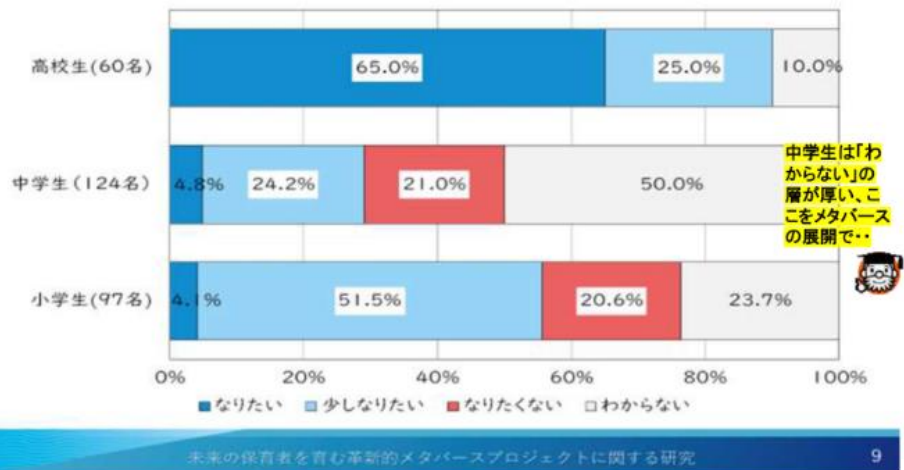
あなたは、将来、幼稚園の先生になりたいという希望はありますか？



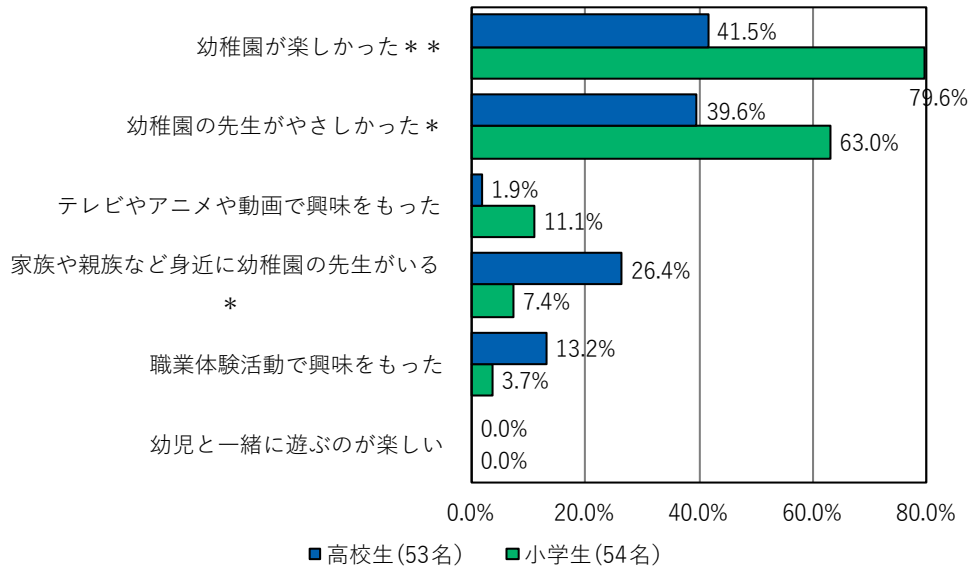


追加資料 中学3年生を入れて比べると・・

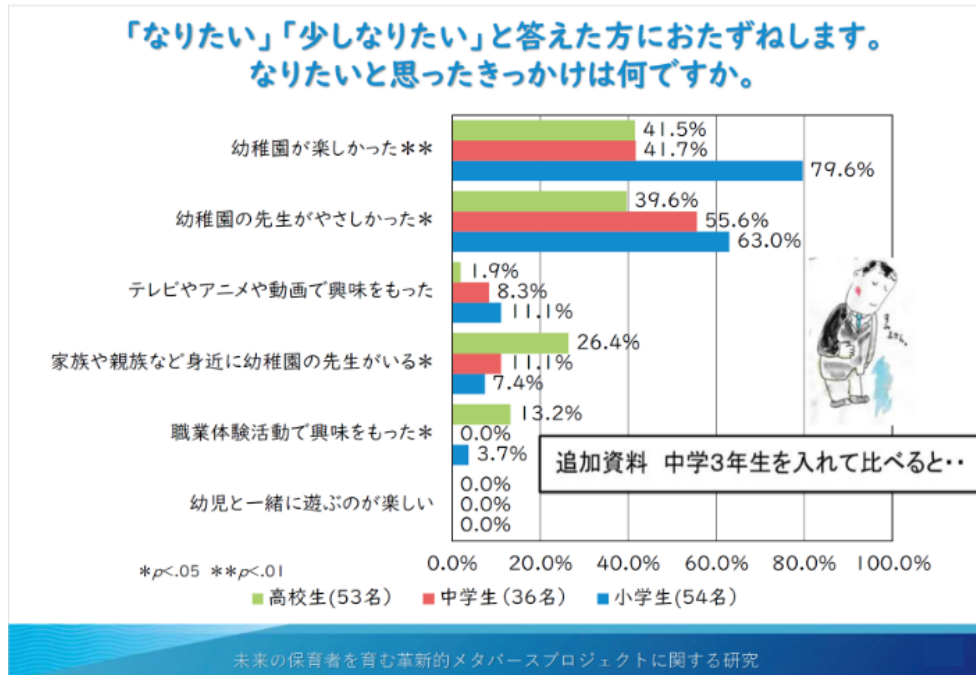
あなたは、将来、幼稚園の先生になりたいという希望はありますか？



「なりたい」「少しなりたい」と答えた方におたずねします。  
なりたと思ったきっかけは何ですか？

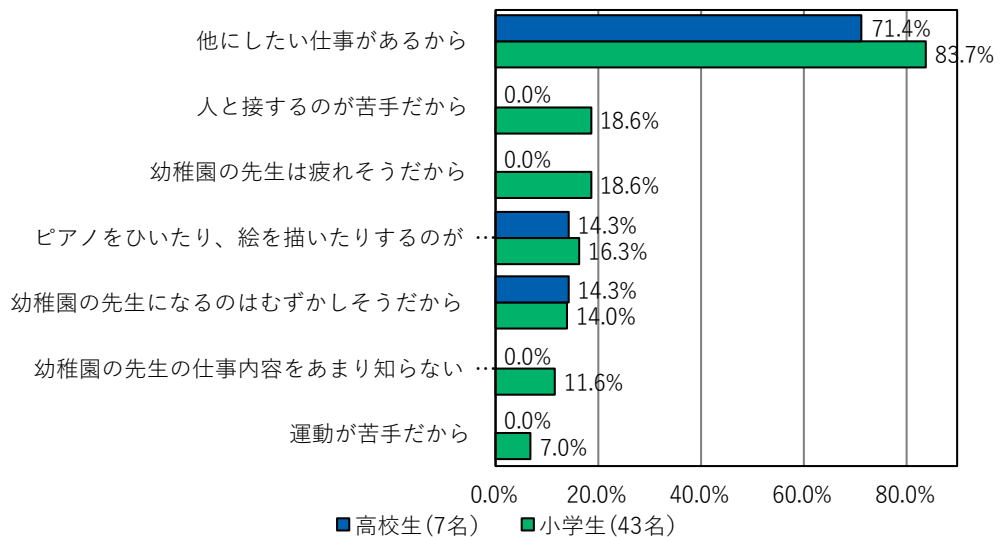


7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（08\_国立大学法人 鳴門教育大学）




7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（08\_国立大学法人 鳴門教育大学）

「なりたくない」「わからない」と答えた方におたずねします。  
その理由はなにですか。




■11月～2月にかけて実施する予定

- ①アンケート結果を反映したハンドブックの作成
- ②アンケート結果を反映したメタバースの構築
- ③幼児教育交流会  
(メタバースのお披露目会 県内高校生と幼稚園  
OB. OG. 大学生. 院生との交流会11/18大学祭にて)
- ④高校への出前授業 (11/28)
- ⑤幼児とのふれあい体験を通じた、中学3年生の意識変化調査  
(12月、於：附属幼稚園)



## 『幼稚園でまってるよー幼稚園の仕事ハンドブック』の作成



ようちえんで待ってるよ！  
ー幼児を育てる仕事の  
楽しさとやりがいー

目次

はじめに 先輩からのエール

1. いろいろな幼児教育施設
2. 幼稚園教育とは何か？
3. せんせいのおしごと

はじめに 先輩からのエール

「せんせい」と、子どもたちから頼られ、信頼される喜びや、せんせいとして子どもたちを笑顔、その成長を目の当たりにできる楽しさは、他の仕事では味わえません。

子どもとのやりとり、コミュニケーションをもとに食育し、せんせいとして、一緒に成長していける楽しさややりがいがあります。

毎日、新鮮な出来事があります。子どもと一緒に「どきどき」「わいわい」する感動がたまりません。

一緒にやろうよ！ 幼稚園で待っているよ！

①出勤から朝  
子どもを  
迎えるまで

天気予報や「よめ、大きなニュース」などをチェックして出勤

職員と挨拶とかわしつづつ、子どもの準備に取り掛かる。

すっきりと強い、何か深しとく、遊んでみたいとワクワクするよう立地場の中に子どもを迎え入れる。

園庭や玄関まわり、室内の様態

2月に徳島県内の全高校他に3000部配布予定。キャリア教育等の授業で活用予定。その他、小中学校での出前事業に活用

徳島県しんがら...

## 「なるきょう めたばーす！ 森のようちえん」の構築



18

### 3.2.8.2 最終報告

## 08\_国立大学法人 鳴門教育大学

【「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業】

選択したテーマ（08\_国立大学法人 鳴門教育大学）

**テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信**

取組A： 保育体験等の実施，幼児教育の重要性に関する講演

取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談

取組C： 養成校生との交流の機会の設定

**テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援**

取組D： OB/OGなどとの交流会

取組G： 幼児教育施設や幼児教育センター等と連携した効果的なカリキュラムの開発

取組H： 複数園での実習の推奨

2

実施した取組（08\_国立大学法人 鳴門教育大学）

1 大学の授業体験「1日鳴教大生」

2 模擬保育「遊びのワークショップ」

3 小学校5年生への出前授業「幼稚園で待ってるよ！」  
－幼児を育てる仕事の楽しさとやりがい－

4 「幼稚園で待ってるよ！」ハンドブックの作成

5 「森のようちえん」メタバースの構築

6 幼児教育交流会

7 高校への出前授業

8 幼児とのふれあい体験を通じた，中学3年生の意識変化調査

3



4

### 「幼稚園で待ってるよ！」ハンドブックの作成

①-A,B,C

②-H

- 『ようちえんで待ってるよ！—幼児を育てる仕事の楽しさとやりがい—』令和5年12月発行
- 3,000部作成
- 徳島県内の全高等学校・中学校に向けて発送
- 徳島県国立幼稚園・こども園園長会、私立幼稚園協会等に発送

#### ▷ポイント/成果

- 小学生・中学生・高校生・大学生を対象に幼稚園の職の魅力伝える内容（はじめに 先輩からのエール／1. いろいろな幼児教育施設／2. 幼稚園教育とは何か？／3. せんせいのお仕事）
- イラストや漫画を交えて、朝の準備から子どもが帰った後までの環境構成や保育者の援助を、小学生から大学生までわかりやすく解説した
- 熟達保育者が保育経験をもとに、具体的なエピソードをもとに執筆した

#### ▷課題

- 模擬授業等で活用し、児童・生徒に評価してもらうなど成果の検証が必要である



5

### 「森のようちえん」メタバースの構築

①-B,C

②-D



#### ▷ポイント/成果

- 操作性・ユーザビリティに配慮し、3D（3次元）ではなく2D（2次元）を採用した
- 8種アバター：園長・教頭、子ども、大人×2、生徒×2
- 動画・保育の仕事・つぶやきなど

#### ▷課題

- アバターを活用したメタバースは参加者の匿名性を担保できるが、セキュリティやジェンダー・LGBTQへの配慮が必要である
- コンテンツを随時更新する大変さがある

6

幼児教育交流会

① - B,C

② - D

1. 第1回（2023年11月18日（土）10時00分-11時30分  
於：鳴門教育大学）：メタバース説明・実演／大学生・高校生交流会（参加者：高校生11名・大学生・院生6名）
2. 第2回（2023年12月16日（土）10時00分-11時00分  
於：森のようちえん）：「ヤギ園長のちょっといい話」（参加者：73名（高校生・現職教員・教育委員会指導主事など）
3. 第3回（2024年2月12日（月・休日）10時00分-16時40分  
於：鳴門教育大学）：「職」の魅力保育に生きる5つのストーリー／ランチ交流会／鼎談「保育者ほど素敵な仕事はない」／よろず相談会など（高校生・大学生・院生（現職教員）・現職教員・教育委員会指導主事など）



▷ポイント/成果

- ・ 高校生をはじめ、大学生や院生、現職教員が本学の会場やメタバース空間に集まり、交流を深めることができた

▷課題

- ・ メタバース空間での講演や交流の機会を増やしたい
- ・ 参加者を増やせるよう広報に力を入れたい



7

高校への出前授業

① - A

【実施日時】2023年11月28日

【取組の概要】

授業テーマ「幼稚園で待ってるよ！  
－幼児を育てる仕事の楽しさとやりがい－」



▷ポイント/成果

- ・ 集団遊びを体験したり、保育実践の動画を視聴したり、保育の仕事について知る機会になった
- ・ 授業に参加して「幼児の発達・成長」「幼児に対する言葉かけや対応など」「遊びのおもしろさ」などに興味をもっていた（図7）
- ・ 幼稚園教諭志望の有無に有意差はみられなかった

▷課題

- ・ メタバースを活用して授業を行う予定だったが、スマートフォンの持ち込みが禁止されていた

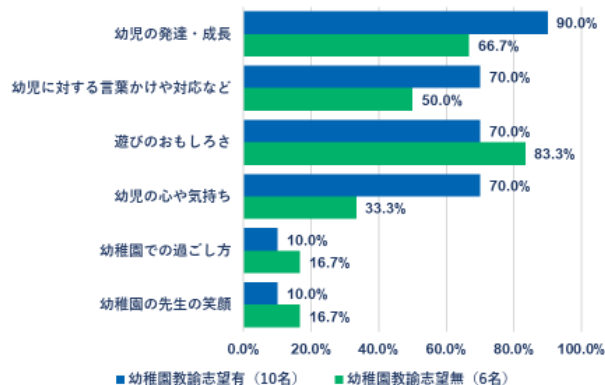


図7 出前授業に参加して興味をもったこと（選択率）



8 幼児とのふれあい体験を通した、中学3年生の意識変化調査 ②-G

- 模擬授業：A中学校の3年生を対象「総合的な学習の時間」（45分）（2023年10月30日）
- 保育体験：模擬授業と同じ中学生「総合的な学習の時間」（45分）（2023年12月6日）



▷ポイント/成果

- 保育体験は模擬授業と比べて「幼児の心や気持ち」「幼稚園での過ごし方」の選択率が高かった（図8）
- 実際に幼稚園の幼児と触れ合ったり、絵本を読んだりすることによって、幼児との関わりや幼稚園教諭の役割について知ることができたと考えられる

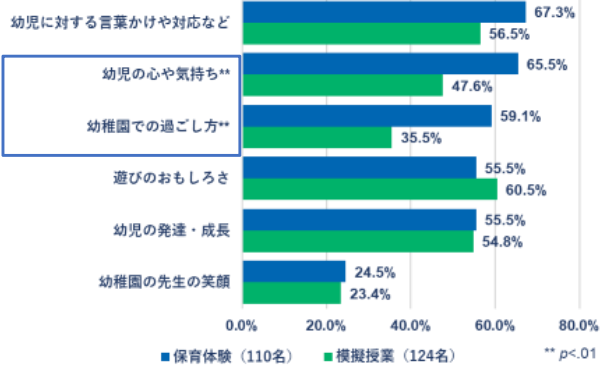


図8 模擬授業に参加して興味をもったこと（選択率）

▷課題

- 授業時間（45分間）内での保育体験は、限られた時間の中で行うため、できることには限界がある



1. 大学の授業体験「1日鳴教大生」の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

7月21日～27日「1日鳴教大生」として大学の授業（「保育内容総論」「幼児教育課程論」など）の授業体験（参加者26名）。模擬授業に参加して興味をもったことは「幼児の発達・成長」「幼児の心や気持ち」などが高く、全ての項目で5割以上の選択率である（図1-1）。大学の行事として、今後も継続していきたい。

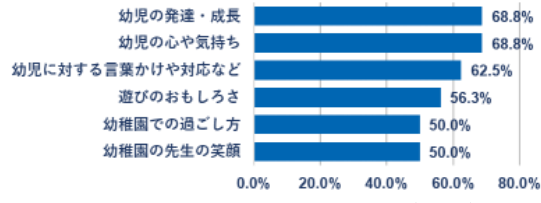


図1-1 模擬授業に参加して興味をもったこと（選択率） N=16

②取組の課題・反省

高校生は、幼児との関わり、保育者の協働、保護者との連携に、幼稚園教諭の魅力や興味をもっている（図1-2）ことを踏まえて内容を工夫する必要がある。

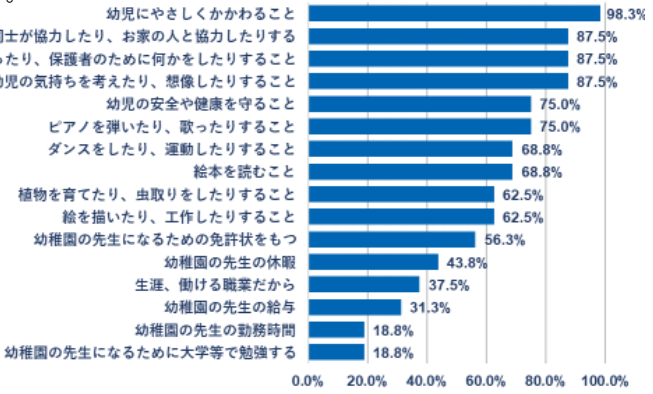


図1-2 幼稚園教諭の魅力や興味をもっていること（選択率） N=16





## 2. 模擬保育「遊びのワークショップ」の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

7月29日「オープンキャンパス」において模擬保育「遊びのワークショップ」（参加者 56名）では、遊びの意義や面白さ、指導のコツやポイントについて学んだ。その結果、「遊びのおもしろさ」「幼児の心や気持ち」などが高かった（図2-1）。

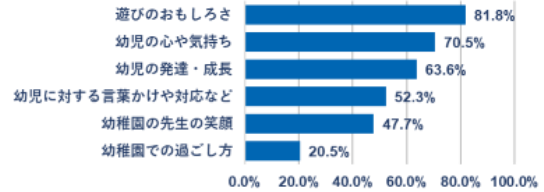


図2-1 模擬授業に参加して興味をもったこと（選択率）N=44

### ②取組の課題・反省

「オープンキャンパス」へ参加する高校生は受験を視野に入れているので意識が高い。幼稚園教諭の魅力や興味をもっていること（図2-2）などを踏まえる必要がある。

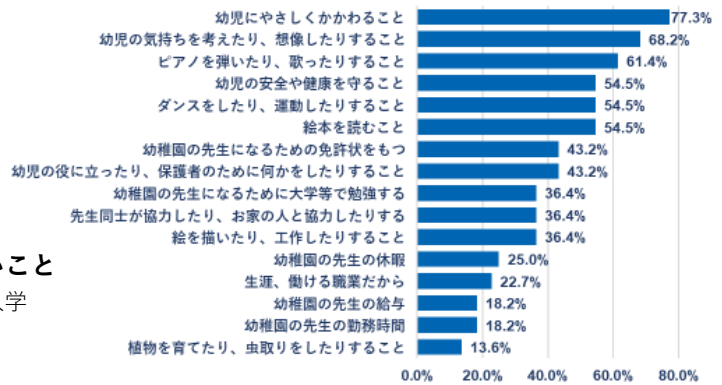


図2-2 幼稚園教諭の魅力や興味をもっていること（選択率）N=44 10

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

「オープンキャンパス」の参加者が入学してれば、追跡調査を行いたい。



## 3. 小学校5年生への出前授業「幼稚園で待ってるよ！」 －幼児を育てる仕事の楽しさとやりがい－の振り返り



### ①成果が出て今後も継続したいこと

A小学校5年生（2023年10月3日）、B小学校6年生（2023年10月3日）を対象に「総合的な学習の時間」（45分）を行った（参加者 97名）。幼児期の発達と遊びのおもしろさなどに興味をもつなど（図3-1）、幼稚園教諭の魅力が伝わったことから、今後も継続していきたい。

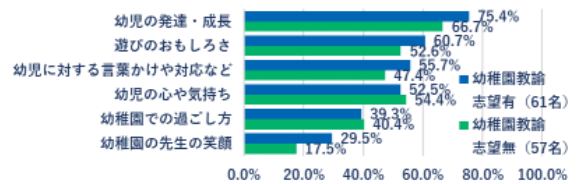


図3-1 模擬授業に参加して興味をもったこと（選択率）

### ②取組の課題・反省

小学生は約半分が幼稚園志望している（図7-1）。幼稚園志望者は、絵を描いたり、絵本を読んだり、幼児の役に立ったり、保護者のために何かをしたりすることに魅力をもっている（図3-2）

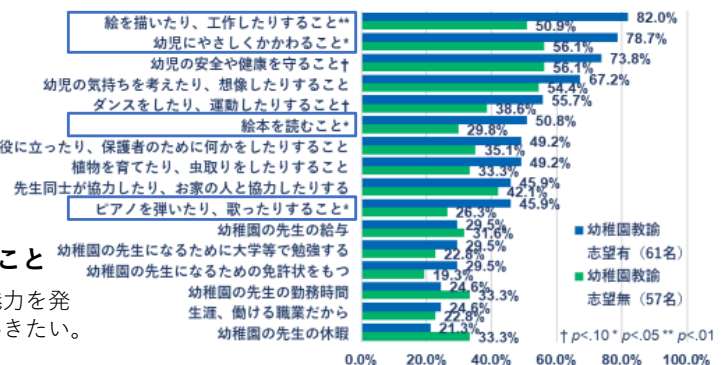


図3-2 幼稚園教諭の魅力や興味をもっていること（選択率） 11



#### 4. 「幼稚園で待ってるよ！」ハンドブックの作成の振り返り



##### ①成果が出て今後も継続したいこと

小学生から大学生までを対象に、イラストや漫画で、熟達保育者の保育経験をもとに、幼稚園の職の魅力、小学生から大学生までに伝える「幼稚園で待ってるよ！」のハンドブックを作成した。今後はハンドブックを模擬授業等で活用していきたい。



##### ②取組の課題・反省

模擬授業等でハンドブックを活用し、児童・生徒に評価してもらうなど、ハンドブックの有効性について検証することが必要である。

##### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

次年度以降に向けて、調査結果（図1-2、図2-2など）を踏まえ、絵を描いたり、絵本を読んだり、ピアノを弾いたり、遊びの達人になるための保育の「わざ」を紹介する内容にするなど、ハンドブックの第2弾を作成したい。



#### 5. 「森のようちえん」メタパースの構築の振り返り

##### ①成果が出て今後も継続したいこと

メタパース「森のようちえん」に関しては、2Dにしたことで8割は「操作しやすい」と評価するなど、全般において高い評価が得られた（図5-1）。これからも運営していきたい。

##### ②取組の課題・反省

未成年を対象とすることで、人権やいじめ、ネット依存等の予防のためにルール作りやセキュリティを強化する必要がある。ジェンダー・LGBTQの観点から、アバターの種類を増やす必要がある（図5-2）。

##### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

来年度に向けてさらにセキュリティを強化することが優先課題である。コンテンツを充実させることやゲーミフィケーションの要素を取り入れ、高校生のリピーターを増やしていきたい。

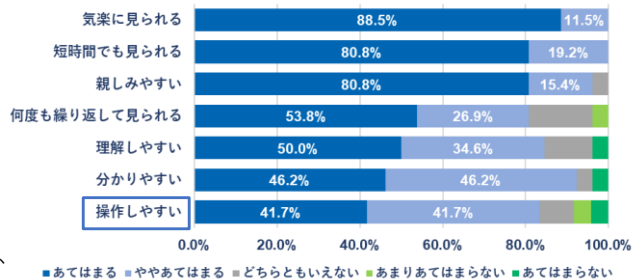


図5-1 メタパースの印象 N=26



図5-2 ログイン画面の視線データ（ヒートマップ）

## 6. 幼児教育交流会の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

図6-1はメタバースに参加した高校生と模擬授業に参加した高校生を比較した結果である。「幼児の発達・成長」はメタバースが高く、「幼稚園の先生の笑顔」は模擬授業が高かった。自由記述は「楽しい」「可愛い」「面白い」などの形容詞で評価されている（図6-2）。

### ②取組の課題・反省

「アバターで交流できるので、やりやすかったです（高校1年生）」「アバターを使ってお話しできたり、交流をもてることができてとても楽しかったです！（高校3年生）」などの感想がみられた。しかし、井戸端会議や個別相談の利用がなかったことが反省点である。

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

様々な対象を想定した交流会を企画し、広報していきたい。

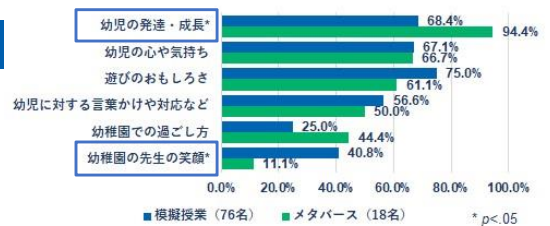


図6-1 高校生がメタバースに参加して興味をもったこと（選択率）

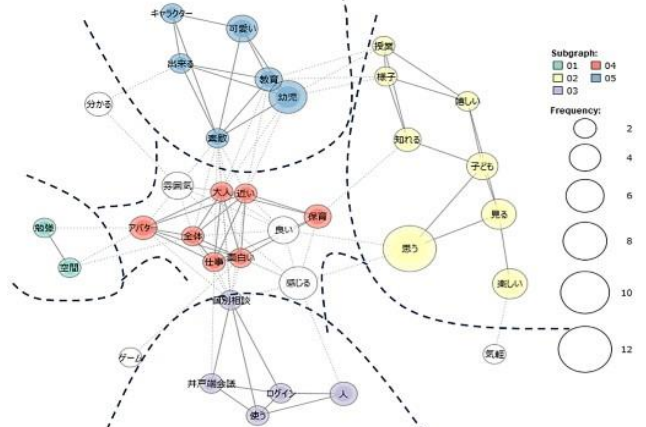


図6-2 メタバースに参加した感想の共起ネットワーク

## 7. 高校への出前授業の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

導入の集団遊びや保育実践の動画の視聴などをとおして、幼児教育の魅力は評価されたと考えられる（図7）。

### ②取組の課題・反省

出前授業やオープンキャンパスに参加する高校生は幼稚園志望の割合は高いが、それでも15.8%は「わからない」と答えている（図7-1）。幼稚園教諭志望のきっかけや理由は、高校生は「幼児と一緒に遊ぶのが楽しい」が高い（図7-2）。職場体験や家庭科での保育体験の影響が大きいと考えられる。「家族や親族など身近に幼稚園の先生がいる」ことも要因になっている。

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

「幼稚園教諭教員育成指標モデル」等を踏まえ、小・中・高校の家庭科担当教員と連携して「高大接続養成カリキュラム」を作成したい。

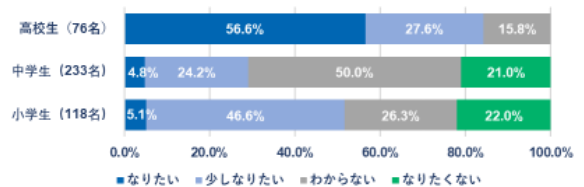


図7-1 学年別にみた幼稚園教諭志望の割合（数値は%）

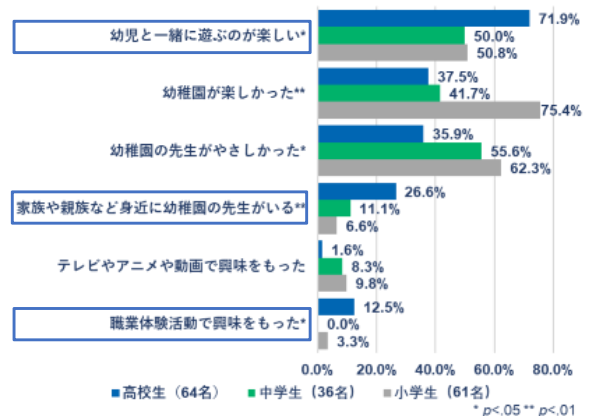


図7-2 学年別にみた幼稚園教諭志望のきっかけや理由（選択率）

## 8. 幼児とのふれあい体験を通した、中学3年生の意識変化調査の振り返り

### ①成果が出て今後も継続したいこと

保育体験は模擬授業と比べて「幼児の心や気持ち」「幼稚園での過ごし方」に気付く体験になる可能性がある（図8）。

### ②取組の課題・反省

保育体験前後で幼稚園教諭志望に変化はなかった（図8-1）。「なりたくない」が21.0%から29.4%に増えているが、統計的な有意差はない。幼稚園教諭志望時期の割合をみると、中学生も高校生も「中学生から」が最も多いことは興味深い結果である（図8-2）。

### ③次年度以降に向けて工夫したいこと

中学校家庭科・高等学校家庭科の学習指導要領の内容を踏まえ、家庭科担当教員と連携しながら、ハンドブックを作成するとともに、メタバースによる疑似保育体験なども視野に検討していきたい。

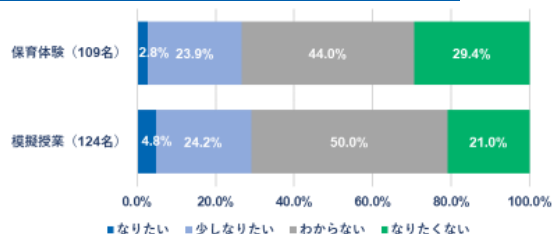


図8-1 幼稚園教諭志望の割合の変化 (数値は%)

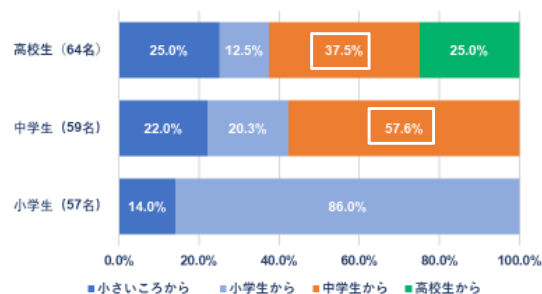


図8-2 学年別にみた幼稚園教諭志望時期の割合 (数値は%)

### 3.2.9 取り組みパンフレットの作成

各採択大学等の成果報告において、特に優れており、他の大学等への横展開に資すると考えられた取り組みについては、別紙2「中高生向けの魅力発信」「養成校生・教諭等のキャリア形成支援」の取り組みパンフレット」として取りまとめた。

### 3.3 第3章のまとめ

本調査は、幼児教育の「職」の魅力向上・発信のため、幼児教育を担う人材を輩出する大学等が拠点となり、養成校入学前からの幼児教育の現場の魅力発信、学生・卒業生のキャリア支援や、離職者等が現場に復帰するための支援等を行うことで、効果的なキャリア支援の在り方や、幼児教育の魅力発信のアプローチの手法を検討した。また、各大学等の取り組みにおいて特に他の大学等へ横展開すべきと考えられた取り組みについては、パンフレットとして取りまとめた。

「テーマ①：中高生を対象とした職の魅力発信」については、主に以下の取り組みが行われた。

- ・大学等の職員による全国の高校での出前授業
- ・養成校生のサポートの下、中高生が園児と交流し、おもちゃの工作を行う保育体験
- ・メタバースを用いた交流機会の創出
- ・動画配信プラットフォームの活用

取り組みを通じて、中高生が実際に園児との触れ合いや養成校生、大学職員との対話を通し、幼児教育の「職」について理解が深まったことに加え、養成校生にとっても保育職を目指す気持ちを思い出す良い機会となったとの成果が報告された。

これからの幼児教育を担う中高生や養成校生の世代は、普段からデジタルデバイスを活用している世代であり、本事業で公開された動画等も 1,000 回以上の再生回数を残しているものもあることから、今後の幼児教育の「職」の魅力を発信させる手段としてデジタル技術の活用は効果的であると示唆される。

「テーマ②：養成校生を対象としたキャリア形成支援」については、主に以下の取り組みが行われた。

- ・養成校生と求人園の適正なマッチングを目的としたキャリアアドバイザーによる面談
- ・周囲の園の実習実績や就職実績を取りまとめたデータベースの構築
- ・メタバースを用いた交流機会の創出（再掲）

キャリアアドバイザーとの面談を通して、就職時点のことだけでなくキャリアプランについて考えるといった声や、データベースの構築については、園の特徴を事前に知れることが実習に際しての安心材料となったとの声が寄せられた。

「テーマ③：現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援」については、主に以下の取り組みが行われた。

- ・各大学等の卒業生を中心としたホームカミングデーの実施
- ・OBOG を対象にした保育研修

取り組みを通じて、若手から中堅、園長先生まで幅広い層の教諭の方が参加された事例もあった。座談会形式で業務の悩みを相談しあい、先輩教諭から若手教諭へのアドバイスや若手教諭ならではの視点からの意見等、新たな発見もある様子であった。

一方で、事業を通しては、取り組みが実際の成果につながったかどうかは就職後の離職状況等を継続的に検証していく必要があることや、大学等の附属園・附属校等取り組みの対象が限られる傾向があったため地域の園や学校に対象を広げる必要があること、離職者に対する取り組み事例が多く創出されなかったこと等が課題として挙げられる。



## 4章 総括

### 4.1 本事業のまとめ

大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（幼児教育の「職」魅力発信・向上事業）では、大きく分けて「教育に集中できる環境整備に関する調査研究」「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業」の2つ事業を実施した。

「教育に集中できる環境整備に関する調査研究」においては、多くの教員が教育活動にやりがいを見出していること、教員の業務に対する時間的精神的負担を削減すると仕事のやりがいが増すといった相関関係が見られることが明らかになった。子供と関わるための教育活動に携わることこそが幼児教育の職の魅力であり、その職の魅力を向上するためには、業務負担の軽減を含めた勤務環境の改善を進める必要がある。

また、「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業」においては、8つの大学等における事業の実施により、中高生・養成校生・離職者等に対し、幼児教育の「職」の魅力発信・向上のために効果的な取り組みモデルの実証がなされた。その中では、いかに幼児教育に携わる職が重要であるか、子供の成長を直接支えることができるやりがいのある仕事かを、それぞれの大学が様々な手法やツールを活用して中高生や養成校生に発信する取り組みが見られ、好意的な反響があったとの成果も得られた。

このように各施設が幼児教育に携わるやりがいを実感できる環境を構築することで幼児教育の職の魅力を向上させるとともに、大学等が中心となり各ステークホルダーの立場に応じて効果のある内容や方法により幼児教育の職の魅力を発信するという両方の取り組みが併せて実施されることを通じて、幼児教育人材の確保・定着が進むことが期待される

そのためには、今後の課題としては以下の5点があげられ、次年度以降の事業において対応を検討していく必要があると考える。

- ① 本事業で作成した2種類のパンフレットをより多くの園・大学等に横展開していくこと。
- ② 調査研究で明らかになった負担の大きい業務について、業務の負担軽減に資する手法を検討すること。
- ③ 一部の大学や園との関係にとどまらず、大学等を中心として、自治体や他大学とも連携して、地域における人材確保・定着支援のための取り組みを拡大していくこと。
- ④ 男性保育者・離職者等多くのステークホルダーを巻き込んだ事例を創出すること。
- ⑤ 本事業の取り組みが幼児教育の「職」の魅力発信・向上に資する取り組みであったか、継続的な調査を行うこと。